WASON
HQ
1104
J74+

Nov. 1890
No. 238

女學雜誌

明治二十三年十一月八日發行
第二百三十八號
一冊六錢。每土曜日發兌

中島俊子女史寄書
新天路歷程（新小説）
跡見花蹊女史肖像

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 237. November, 8th. 1890.

第二百三十八號目次

EDITORIAL:—The Perfect man—Christ, On Reading the Imperial Edict.

MISCELLANEOUS:—Brief History of Japanese Pictures, (Suyematsu Kentō). Sketching on the Beach, (Kaho Joshi). A Place to Practise Cooking, (Kokensei). Life of Akebono Joshi —Kimura Yei. Precautions to Desease of the Lungs. Thoughts of an Autumn Evening, (Unpōshi). The Female Students. Treatment of Guests. How to take Milk, (Misao). The Common Sense. The Numbers of Newspapers issued in different Countries.

NOVEL:—"The New Pilgrim's Progress." (Translated by Sōshin Giofu).

CRITICAL NOTES:—Dictionary of Japanese Society. "History of Japanese Literature." The Theology of Christianity. On Reading the Criticism of "Aizansei."

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS:—Do not remember that you are learned. Nothing new in the World. The Prosperity of the Society Working for the Abolition of Leicensed Prostitution. Experiments on Food.

CONCERNING WOMEN.

社說　謹しみて勅語を拜讀し奉つる●完人物、基督(下)

雜錄　日本繪の歷史概畧(其三)(末松謙澄)●女史の分際を以て學問する事かはある（三美鄕人寄）●磯の筆草(田邊花圃女史)●割烹實驗場(香軒生)曙女史木村榮子の傳(下)(淸花女史)●肺病の用心●秋夜感懷(上)(雲峯生、●女學生、客あしらひ●牛乳の飲み方（みさを）、●通俗理解●各國發行新聞紙の數

小說　新天路歷程(湘川漁夫譯)

批評　日本社會事彙●日本文學史●基督教神學●日本婦女用文●愛山生の評を讀で

寄書　暗記誦學

時事　女學校長さ廊下●學問あるとを覺ゆる勿れ●二個の豪聞幽滅する國家●世に新らしきものなし●長遠高久●廢娼論者目下の覺悟●廢娼運動愈隆盛●中正日報●コフヒー●食物試驗

交詢
通信
片々
週報

東京

廢娼運動費募集廣告

廢娼の急務たるとは今更に辨ずるを待たず。社會の改良此に淵源し、公共の風儀此より改まり、青年の志氣之が爲めよ奮ひ、敎育の淸潔之か爲めに固く、女學の進步此に依りて健やかならん。ゆえに廢娼の一日後るゝは、國家大計の成立一日後るゝなり、四民ともに慟哭痛歎する所ろなかる可らず。吾輩此に慨し、曩に東京廢娼會に加盟し、只管ら運動に助勢しぬ。其力足らざるに非ず、資に乏しきとを歎くのみ。今玆に、帝國議會開け、志士雲の如く集まり、府下の景勢大に勃隆せんとす。吾輩廢娼上の運動も亦頻煩ならざるを得ず、爲めに資を要すると少しとせず。仰ぎ願ふらくは四方同志の諸君、切に吾輩の微志を察し、其運動費の幾分を助捐し、以て此の急緊切要の事業をして、速かに成効就了せしめんとを、道の爲めに敢て四方に請ふ。

小則

一　義捐金は下六番町六番地女學雜誌社にて取次ぎ、東京廢娼會へ轉送し、同會の運動費に合用せしむ。

二　義捐者の姓名及金數は、女學雜誌、日本評論、福音週報、基督敎新聞に於て廣告す。廣告は受取證に代ゆ。

三　運動費募集の會計、及び運動使用途の報告は、時々四雜誌に於て同樣廣告すべし。

右運動費募集發起人總代(イロハ別)

巖本善治　飯野吉三郎　星野光太　德富猪一郎
大西祝　渡瀨寅二郎　渡邊泰　金谷昭
横井時雄　田村直臣　田井正一　根本正
中濱東一郎　植村正久　植木枝盛　黒岩周六
小島官吾　木村熊二　木村駿吉　湯淺二郎
三宅雄二郎　島田三郎　平岩愃保　森林太郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

勅語

朕惟ふに我が皇祖皇宗國を肇むること宏遠に德を樹つること深厚なり我が臣民克く忠に克く孝に億兆心を一にして世々厥の美を濟せるは此れ我が國體の精華にして教育の淵源亦た實に此に存す爾臣民父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し朋友相信じ恭儉己れを持し博愛衆に及ぼし學を修め業を習ひ以て智能を啓發し德器を成就し進んで公益を廣め世務を開き常に國憲を重じ國法に遵ひ一旦緩急あれば義勇公に奉し以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし是の如きは獨り朕が忠良の臣民たるのみならず又以て爾祖先の遺風を顯彰するに足らん斯の道は實に我が皇祖皇宗の遺訓にして子孫臣民の倶に遵守すべき所之を古今に通じて謬らず之を中外に施して悖らず朕爾臣民と倶に拳々服膺して咸其德を一にせんことを庶幾ふ

明治二十三年十月三十日

御名　御璽

女學雜誌 第二百三十八號 明治二十三年十一月八日發兌

社説

謹みて勅語を拜讀し奉つる

明治二十三年十月三十日、陛下は玉躰に微恙あらせ玉ふにも拘はらず、總理大臣山縣有朋、文部大臣芳川顯正の二人を御枕元近くに招かせ玉ひ、平素教育の事に大御心を煩わさせ玉ふこと淺からぬ御爲とて、ねもごろに、教育に關するの、勅語を下し玉はりける。文部大臣が其謄本を下々に交付し、聖意の在る所ろを、洽ねく貫徹せしめんことを欲せしにより、微臣吾社中の如きものも、直ちに之を捧讀するの榮を得て、感拜恭謝、爲す所ろを知らず。

謹しみて其謄本を見奉つれば、日本建國の礎え深く且つ厚ふして、祖宗先皇の國を肇め玉ふ頗ぶる宏遠ある故よしを、先づ詔のり玉ひ。克く忠、克く孝なるは、我が日本國躰の精華なる趣きを次に諭し玉まひて、教育の淵源實つに此に存んすと教へ玉まふ。實に、忠孝は立德百般の根底あり。家に在つ

ては、先づ父母に孝養す、父母に孝なるによつて、謹愼にして且つ愛に深きとを得、此に於てか、兄弟姉妹相交るに友あり、夫婦子孫相睦むに愛あり、一家之が爲めに和樂す。外に在ては、先づ君に忠仕す、君に忠なるによつて、國を愛し民に親しむとを得、一朝緩急の事あれば義に勇みて公けに奉じ、君が馬前に戰ひ死して外か悔を防ぐと、一に臣民無上の光榮にして、固と眞とに君に忠なるの誠心より發す。左れば、忠孝は實に敎育の淵源にして、大凡そ人の美德之より發せずと云ふことなし。蓋し敎育は、智能を啓發して學業を修め習ふのみの謂にあらず、大ひに德を立てゝ人類當に務むべきの責任を盡す所ろなかる可らず、此を以て、勅に云く、德器を成就し進んで公益を廣め世務を開くと、人苟くも此に至らずんば、學びたりと云ふと雖ども、未だ陛下の臣たるに足らず。孔敎は素より、忠孝を重しとなす。佛道も亦た、王法を重んじ、眷族和睦すべきとを敎ゆ。基督敎も亦た、汝等王を懼れ總て權力あるものに從ふべし、又た汝等その父母を敬まへと敎ゆ。何れの宗敎道德か、先づ忠孝を重んぜざることあるべき。此の故に、勅に云く、斯の道は、古今に通じて誤らず、中外に施して悖らずと。蓋し万古に通ずるの大道なり。宗派もしくは倫理の論者、濫りに私意を曲げ、巧みに袞龍の御袖に被はれんとして、斯の大道を私するとある可らず。又た、君に忠に、父母に孝に、公益を廣め、世務を開き、國を重んじ、國法に遵ふの類ひ、陛下の臣民が皆な同一に服膺順守すべき所ろの明道にして、男女老幼の差別を以て責めに厚薄ある可らず。勅に云く、咸な其德を一にせよと。男女ともに德を均しふして、性により標準を異にするとある可らず。あゝ此の勅語は、大道の指針、明々道の光輝、日本敎育の大典範ある哉。うや〳〵しく万歲を叫ぶ。

完人物

基督（下）

活摸範

百聞は一見に如かず、德を修め善に進むの道に於ては、尙更に然りとなす。人皆な是非の心あり、能く善惡を差別す、亦惻隱の念ひ備はり、能く情けに動く。たゞ之に難んずる所ろのものは、善を思ふて移らず惡を知りて去らず情けに動きて而して情けの所行を爲さゞるにあり。古しへより、聖賢多く世に出でゝ說法す、說く所ろ至善ありと云ふと雖へども、敢

て斬新なるにあらず、盜跖もユダも、共に承知する所ろのもの也。故に、人類の墮落せるを救ひ、導びきて之を善に移さんには、之に勸善懲惡の說法を爲すのみにては、ほと〳〵効あるとなし。何如なる罪人と云へども、日夜其心裏に、道を叫ぶの聲を聞かずんばあらず。此を以て、人を化するには、人に說かず、之を薫す、口を以て敎へず、身を以て示す、法令條則をもて制せず、生命と實德とを現はして導びく。大凡そ、德義修練の方、此に至らずんば力らあるとなし。

人は先生を要す

天地は神の聖殿あり、限りなき愛と極まりなきの威とは、万物に現はれて昭々たり。古今の歷史、之を證す。万國の盛衰、之を證す。人の榮枯、之を證す。われ自己衷心の意識、亦明らかに之を證す。左れど赫々たる天日の浮雲ありて之を覆ふとの如く、明々の至德亦た光を隱くすとなきに非ず。夫れ天地間に至妙の美元あり八荒に散亂す、然れども花之を集めて美くしく咲き笑ふにあらずんば、人遂に之を確認するとなし。一塊の土くれ、みにくき土鼠も、極麗の聖氣を存せざるにあらず、左れど、詩人バルンスの如きものありて之を歌ふとなくんば人遂に悟るとなし。故を以て、凡人の目前には、愛と威との實躰を示すとを要す、天地間至聖至妙の德、生ちを取り活きたるパーソン(人物)となりて出現するとを要す。人皆な心に理想なきにあらず、然れども理想よく肉の重きを動かして人を上に導びくと能はず、理想とすべき完人物確かに實在して、われらが師範となり吾等を敎義感化するとを要す。人はたゝ言論に據りて道に進むと能はざる也。佛門幾万の人は遂に釋氏を以て生ける完人物の理想となし、孔子は周公を、孔弟は孔子を、各自その生ちあるの理想となしぬ。人或は云はく、理法を信じて德を脩むるとを得と、希臘の聖人を初めとして、先頃ろ世に吹聽したる理學宗の人々に至る迄で、皆なかゝる謬誤に陷いりぬ。かゝる輩は、人情を知らざるの徒なり。死せる理法を重んずるによりて能く德に進むとを得ば、人間何人と言へども其眞心の制裁に隨從し以て至善の德に進むとを得べき筈なり。左れど古來未だ嘗て斯くして聖に達したるものあらず。偶ま在りと云ふと雖ども、吾輩凡人の類ひにして能く之に達したるもの殆んど稀れ也。

基督來る

基督の世に出づるや、敢て新らしきとを言はざりき。彼明らかに宣言すらく、余は先人の言葉を破るものにあらず、亦た

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新らしき教を教ゆる者にあらず、然れども若しわが言を信ぜずば、わが行によりて信ぜよと。彼は言語を以て道を傳へんが爲めに來らず、行ひを以て人を導びかんが爲めに來れり。故に云く、我は生命なりと。基督を知らんと欲するものは、先づ其人物を見ずんばある可らず。

奇　蹟

基督多くの奇蹟を爲しぬ。奇蹟は固より奇なり。然れども奇なる事柄は奇なるが故に有ることなしと云ふものあらば、其見の短なることを笑はずんばある可らず。世上何ものか奇ならざるべき。たゞ屢々見る所ろのものは之を奇あらずとし、稀れに見る所ろのものは之を奇とす。所云る奇と不奇との差別は、多くあることと稀れに在ることを以て別つに過ぎず、其大本理に至つては共に辨別す可らざる也。亦た自然法を破るによつて之を怪しとするものあり、然れども自然法は互ひに相破ることを知らずんばある可らず。相合して質を變へずたゞ量を增すものは物理學上の法則あり。然れども化學上の法則に於ては、二者相合して第三の異種物を生ず。生理上の法則に於ては、一の者、他を變へて己れのものと爲す。心理上の法則に於ては、物に頼らざるの勢力あり、勢力反つて無形界より有形物を動かす。夫れ、物理と化理とは相破り、化理と生理と心理とは亦相侵す、世人總稱して自然法と云ふと雖ども、自然法は既に互ひに相破る所なくんばあらず、安くんぞ既に知る所ろの自然法以上に更に層一段の超自然法なきことを知ん。敢て之を超自然とは云はず、自然法中の未だ況ねく現はれざるものと云ふのみ。例せば未だワットに會せざる以前の蒸氣力、未だフランクリンに會せざる以前の電氣力と云が如し。クリスト出るに及び、初めて驗知することを得たるの自然法ありと云ふと云へども、亦何んぞ怪しきことかあらん。

基督の奇蹟

吾人は必らずしも、基督が渡水治病の奇蹟を悉とく信ずと云ふものにあらず、たゞ之を大否定することを得るの確證未だ存せざるの限りは、暫らく之を未定問題に置けと云ふ耳。彼の奇蹟を見て其奇蹟なるが故に信ぜずと輕々速了斷し去るものは、陋見尤も甚はだしきもの也。吾人が基督を崇拜する所以のものは、かゝる淺薄なる箇條ありての故にあらず、實に其の道德上の品性、天を摩するが如く高く、絕潔雪よりも白く玉よりも淸きの處ろにあり、即はち吾人が基督を尊とむの所以は、其完人物なるが故にある也。

神子論

吾人は初めより、基督を神の子とも人の子とも斷定するとあし、何んとなれば斯る問題を最初に論窮するは殆んど無用なるがゆへ也。基督は一千九百年の昔し、ナザレ村に生れ、ガリラヤ湖邊に傳道したり。めしひも之に觸るゝとを得、足なへも之に抱かるゝとを得たる、確實明白の人間たりしにあらずや、之を人の子と言わんに何の不都合かあるべき。然れども、若し其人物を見て、確かに其の異常非凡の品性に滿ちたるとを認ため、万人に優れたる至聖として之を崇拜するに於ては、人たれか之を神と崇めざるとあるべき。德富猪一郎君は純粹の基督敎徒にあらざるべし、左れど其新島襄君の事を言ふや「わが神とも」思ふと言ひたりき。吾人は如此き評言を太甚しく嫌惡す。左れど、凡そ人、自己の崇拜する所ろのものに對しては、皆な之を神の如くに崇むるの情あると明けしとは言ふ、一例以て万づに推斷するとを得べし。此れを以て、未だ基督を知らざるの人に向つて、基督は神なりと論ずるは抑そも迂なり。萬人先づ彼を見るに若かず、見て而うして后ち彼の果して何如ある人物なるかを、愼しみて考慮沈思すべし。

完人物

吾人は歷史上及び現今の諸人物に於て、未だ嘗て基督の如き人物を見たるとあらず。世上の先輩切りに橫議斷論す、然れども吾人其品德と行狀とを併せ見て、未だ彼等が言ふ所ろに從ふと能はず、何んとなれば彼等は基督に比ぶべきほどの人物にあらざれば也。吾人は孔子、釋迦、ソクラテース、の諸聖を異常の人物となし、只ならず之を崇敬せり。然れども未だ基督を見るが如くに之を拜すると能はず。吾人は顏回を愛すると共に亦た孔子を敬す、如此く彼等を愛敬すると同時に、基督を崇拜す。固より彼等に反くものにあらずと云へども、未だ基督に對するが如く全身全力を獻捧すると能はず。基督は、吾人が理想なり、眞理也、道也、生命也。

何によりて若か言ふ、吾人は基督の如き人物を他に見ざるが故なり。異日若し基督に優るの人物あらば吾人は更に敎を受くべし。然れども、今日未だ他に其人を見ざる也。基督は天を敬す、吾人は未だ彼が如く、敬宇尊神の念に嚴そかあるものあるを見ず。基督は眞理を重んず、吾人は未だ彼が如く、道を尊とみ理を愛するの精神に熾んあるものあるを聞かず。亦、彼は、人類の運命を知悉せり、亦彼は世界の大道を辨

別せり、亦彼は義を愛し不義を惡むの情に尤とも烈々なりき、亦彼は人情を重んじ愛を切にし父子夫婦兄弟姉妹朋友の眞情を盡せり。要するに彼は、人類の尤とも高き理想に好適し、尤とも自づからなる人情に甘和し、吾人が正純至當の意識に能く適なひて、極めて淸く人を化するの德を有てり。吾人其榮光を見るに、眞とに嚴そかにして尊とく最と高くして極めて潔ぎよし。たゞ贊美して之を崇拜するのみ。此に至り、安くんぞ衷心より之を崇めて神と爲さゞるとを得ん。

彼に師事せざるものなけん

基督の言へりし事柄は、素より新らしき事にあらず、左れど基督の如き感情を以て、基督の如く明らかに言ひ得たるものは未だ嘗てあらず。吾人二千年の下にありて其當日の風采を想見し、聖經によりて其言敎を一々諳味するに、良心聖絕の奧に透徹して、吾人が全身を薰化するに足るもの、未だ如此くなるものはあらず。カーライルがクロムエルを學ぶや數十年を要しぬ、吾人短才、尙ほ且不十分なる言行錄によりて基督の言行を明らかに會得し、而も其聖旨の眞に在る所ろを窺わんとを欲す、固より尋常輕薄の覺悟を以て得て爲すべきとにはあらざる也。正念正坐、先づ心を嚴肅にして而して后ち就て之を見るべし。苟くも道に志ざすの人にして、もし眞に彼が言行を見ば、心服せざらんとするも得じ。孔子云く、東方に聖人ありと。孔子もし彼を見ば必らずや之に師事すべし。

一 新見

基督敎徒とは、基督の弟子なり、基督に就きて敎を受くるの門弟なり。敎會とは、彼等門弟が道を研究するの塲なり。安息日とは、彼等が此の研究を行ふの日也。警告す、日本國裏われ等の同胞よ、公等何によりて基督の如き聖人物を斥ぞけんとする。もし其德を可とし、而も其德に倣わんとすることあらば、之れ既に基督の門弟にあらずや。吾人は基督の道を傳ふる者に幾分の誤謬なからんかを疑ふ。如此く亦た世人が基督敎を見るとの甚はだ坊守くさきとを惜しむ。眞正の宗敎は人の大道あり、日常履行して万人共に順守すべきの常道あり、何にの變はれるとかあらん。吾人は敎外及敎內の人の、互ひに僻見を快脫し、共に公平の眼識を以て道を研究せんとを勸告す。日本もし完人物少くんば日本は完國にあらず。吾人は、好人物及び僻人物の速かに數を減じ、完人物の多く出なんとを禱る。而して完人物たらんとを欲する者は、先づ完人物を學ぶに如かざる也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜錄

日本繪の歷史概畧（三）

末松謙澄

雪舟の流派の中に雪村といふ人がある此人の名は周繼といふて山水や人物が巧手で御坐いました此人は雪舟の直弟子ではないが雪舟と周文とを慕つて名を周繼と付けたそうで唯繼雪村と計り書いたのもありますこの人の書いた繪で箇樣に奇麗なのがありますこれは竹に雉子が書いてあるが草花などを書いたのもあります。

それから少し時が降りまして舊幕の時代で御坐いますが曾我蛇足の御話の序に申します曾我の蕭白といふ人がありました此人は探幽より後ちの人で御坐います此人は重に妙な繪ばかり書いた人で諧謔繪をかきました併し筆力が達者でまじめな繪もよく出來て一見識のある人です其比土佐や狩野家で先祖の眞似計をして型に入れたやうな變化の少ない繪が大層流行して人目を新にするものなき處から蕭白は繪と云ふものは其樣に箱詰にするものでないといふて自分で一機軸を書き出した人で御坐います恰度其比大雅堂といふ人がありました是も蕭白と同じ樣な見識を有したる人でありますが此人は或は霞樵ともいふ此人の細君は彼の玉蘭といふ有名なる畫工で夫婦とも貧困に陷つても一向頓着せず繪ばかり書いて居たといふ大雅堂は土佐家の規則固めの繪を嫌つて磊落なる繪を書き飲中八仙などいふ繪を書いたが實に妙な繪では御坐いますが中には念の入つた山水を書いたのもあります扨又曾我と申しても蛇足と蕭白は血統が續いて居るでも何んでもないと思ひます此繪を御覽是は曾我蕭白の書たので御坐います是れは筆で書いたのではなく刷毛でかいたので御坐います釣瓶の中に鳥が逆さにザンブリと頭を入れて水を飲んで居る處です又私の家に此人の書いた屏風が一雙あるが其屏風にかいてある繪は橋があつて耳の長い馬に乘て居る人が大變寒むかつたといふ風で逃げて行く所と子供が耳を押へて行く所がありて其傍に大きな瀧がある此れは大方瀧の音が怖かつたといふ意味で御坐いませう箇樣な新奇な思ひ付きの繪を多くかいた人で御坐います。

次は狩野家で御坐います狩野家で一番名高いのは古法眼で御坐いますが其親父さんに正信といふのがある正信は足利の東山の比で前に述べた能阿彌藝阿彌相阿彌の比の人であるが恰度今日より四百年あまり前の人である正信の一名は祐清とも

云ふ或は「濟」は勢と云ふ字を書いたのもある此人を狩野家の大祖といふて宜しい此人はなか〳〵エライ人で其子に元信といふ人がありました雪舟か元信かと稱せらるゝくらいで世に古法眼といふは此人のとです元來古法眼といふは畵工の任ぜられて居た官名で御坐います元信は小栗宗丹などに習つたといふ其妻は前に申た通り千代といふて土佐の滿信の娘である是等の人は餘程名高い故定めてあなた方も御承知で御座いませう或人の說に依ば繪の種類に依ては元信より正信の方が巧手であるといふ此國華にも大層正信を褒てありますこゝに掛てあるのは正信のかいたので御座います元信のかいたのは澤山ありますが就中花鳥が巧手で御座いますこれは水の中に白鷺が（小首かたげてと云ふ譯でもありますまいが）立て居る所です。

それからこれは元信の仲子季頼といふ人の書いたのですが此人のかいたのは稀で御座います是も狩野畵の見本にはなりますから御覽に入れます。

元信の弟に雅樂之助之信と申すがありまして當時世の中が亂れて仕事もなき所より若き時は兄弟諸共三井寺に宿を假り扇子に畵をかいて口を糊して居たと申すとです雅樂之助は兄さんの元信と殆ど兄たり難く弟たり難き勢にて是も世に多くはあらぬ名人です尤も花鳥抔の繪に上手でした。

其後にエライ人は五代目の永德といふこれは狩野家で正信より五代目に當ります恰度太閤樣時代の人で此人の父を松榮といふ琴のお師匠さんのやうな名で御座います此永德を古永德といふ其後にも永德といふ人がある故前の永德を古永德といふ信長が安土の城を築たる時城の座敷の繪をかいたと云ふ又豐臣大閤の桃山百双とて多くの屛風がありまして其繪は多くは大模樣にて金泥で大きな橋をかいて其側らに柳の木一本書たのなどがありますが大抵永德がかきましたのださうです其頃また狩野山樂といふ名人がありました山樂又は三樂と書てあります此人の家を京狩野と云ひます此人は元來木村人でありましたが大閤に仕へ命により狩野永德と父子の義を結び狩野の姓を冒しました此人も桃山百双の畵を大分書きましたそふです山樂の義子山雪も頗る有名です。

是よりまた狩野の正統に返りて申さんに八代目を安信と云ふ其兄に守信、尙信二人あり安信狩野家嫡流の家を繼ぐ是狩野の宗家にして中橋狩野と稱す守信尙信共に別に家を興し守信の家を鍛冶橋狩野と云ひ尙信の家を吳服町狩野と云ひ之に駿河臺狩野を加へて狩野の四家と稱す共に大に德川家の寵遇を受けたり中橋鍛冶橋とはいづれも今の東京元の江戸にて其屋

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

敎のありたる所です守信は即ち彼の世に名高き探幽のとです安信尙信も亦相應に名あり此後は狩野の血統の家にて、尙信の子に常信と申すがありまして探幽に亞ぎて有名なるが其外には是ぞと申すものは御坐りませぬ。

女子の分際を以て學問する事かはある

三美鄕人寄

埼玉縣とか或は他縣とか兎も角國會議員たるは確かなり其議員たる某君が或婦人に物語り玉ひしといふを傳聞くに妻として持つべからざるものは女學校出の婦人なり吾が縣の如きは殆ど皆女學生を嫌忌するのみならず女學生自身も大に恥るところありて今は却て身の學窓にありし事を掩ひ隱すに至るこそ道理なれ、女にして物の文など讀むは大なる身の害なりおのづから氣位高くなつて動もすれは人をして啞吐せしむる如きまで慢心を生ずるこそ忌はしゝ苟にも女性の分際を以て女權擴張を說き婦人と雖も人間としての權を得るは當然なり然らば此の如き法例は改めて欲しきものなりなど後行政上にまで喙を容るゝにいたるこそ氣の毒なれ。

元來婦人にして書籍を繙とくが過りの第一原素なり字が讀めるに隨がつて新聞を讀み新聞を讀むに隨がつて世の中を生合點し生合點するに因つて喋り出し喋つて說四方に達せず聲天地に遍からざれは恣に筆に訴へ口に叫ぶに至るとは無情の至りならずや女子はおのづから衣を縫ひ食を理するの職ある者を猶わきたらず思ふにや女子の中には書を讀むの外或は詩歌を詠じ繪畫を學ぶ者等あるよしなるが果して何の意ぞこれ皆女子が分際を知らざるの過りなり御元も女性の身なれは努々婦人が身を傷つくの一原素たるかの書籍を繙とく如き事はなし玉ふなかれと說かれたりとぞ話しは傳へ傳へておまけを添ふるものにして原談よりは少しく草冠辵等を增加したりとするも其意向の如何は知べきなり余と雖も素より婦人が今日の有樣を以て間然なきものと思ふものには非ず然れども事物動搖の時代即ち變遷しつゝあるの時は其體面の頓智漢たるは免る能はざる者にして沈默の婦人が聊か言を開かんとし不文の女子が少しく書を讀み得るの場合にいたるときはおのづから昔日の沈默不文に異なるの色聲を呈するに至るべし敎育の目的固より往日の色聲を進化せしめんとするにあればなり其進化せし色聲を以て異觀の思ひをなし徒らに之を嗤笑するは即ち男性が元服チョン髷を頓にイガグリに爲し優々たる袴羽織より頓に窮屈なる筒袖に變せしときの不慣と一般なり日一日より年一年より髮の岐け方洋服の着方往日の不慣を奪はれ去て

全く我が物になりしものゝ如し婦人が學問も惡躰裁より好躰裁に移らんとするの際にして未だ全く我物と爲らざる今日なり然るをこれが完備の方向を講ぜずして只管これを退歩せしめんとするは恰も人民は幼稚にして到底政權を分與するに足らずと斷念してこれがうち毀はしに從事する者と一般 如此にして社會の進化いつの日にか見るを得ん婦人の分際で書物を讀み文を綴り言を開くは以ての外なりといはゞ百姓町人の分際で髭を生し政治に喙を容るゝなどゝは以ての外なり御身の親は鋤鍬を以て肥桶を擔ぎしものに非ずやそれが息子にして國會議員と爲るは以ての外なりといはゞ某の議員は以て何と答へ玉ふにやと或婦人の評せらるゝを聞きたるが果して孰れの説が適切なるや聞かまほし。

磯のふて草 (四)

田邊花園女史

是よりは又、塔の澤、一の湯へのかへり道なり、このわたりなへて石を敷たり、のぼり下るも皆石の坂道なり、かしこくも、和の宮のあづまに下りし玉ひし時、箱根の道をつくろひ、石を敷たりと聞しはこゝなりけりなど思ふに、かの宮御心には、さま〴〵に苦しく、思す事ども、多くおはしますめるを、再びは得こそ歸らじと、のたまひしおゝしさ、傳へ聞しを思ふにいと悲し、かへるさ、今様さま〴〵の詩歌など、うち誦し、この石坂を、のぼり下る道に、二子山おしがら山、いと低き山なるに、爭で大磯より見えけんといへば、おろかにもいふもの哉、わが居る所の高きをしらでなど、かの兄君に笑はれき、この日の内大磯へかへらんと、すべてこの道はひたはしりに走りしかは、供の男、都の人には珍しとて、舌をまきぬ、六時過る頃湯本へつきぬ、鉄道馬車は、七時十三分に出るなりときゝて、猶いそぎに急ぎて、一の湯へつく、やがて、衣かへて夕げたふ、四十五六分がほどに、萬したゝめて、からく馬車に走りのる、このうち一重心にいそぎしかば、瞬くひまなりき、おのれかくもの事とくなす事を得ば、世に益多かるべしといへば、常にものに心つき、又いさぎよき從弟の君は、實にさなり、一致すれば、仕難き事はなきものぞとのたまひぬ、國府津につきしは、滊車の出し後なり、詮方なくてわたりの馬車雇ひぬ、馬つかれたるにや、しばらく行ては立とまり、おへども打ども動かねば、御者おり立ちて持そへてあるく、牛のあゆみのこゝちしてもどかし、十時頃に大磯へ着く、同じやどの人々、おば君になど、もの語り聞へて打

臥しぬ、十九日夕つかた、のこる心を勵まして都へ歸らんとす、のこれる人々も袂引留めて、今しばしはなどいふに、

都へといそぐ心のいかなれば又こゝにしもとまるなるらむ

二ツある身ともがななど、うちかこたれぬ、かくあはたゞしき旅なりしに、文よみもの書くとなど、せざらんこそよからめなど、醫師のいひしを守りて、歌もよまず、文もかゝずありしとども、忘れしが多かり、歸りの滊車にていとこに成し人、見し所々に思ひ出るまゝなれとて、かきて玉はす。

酒匂川、早川、落合橋、旭橋、常盤の瀧、しらべの瀧、白糸の瀧、木の葉の瀧、夢想國師の古跡、姬の水、宮の下、底倉、宮城野、大涌谷、うばこ、海尻の新湯、湖水、離宮、權現、玉たれの瀧、二子山、公時山、あしがら山、あしの湯、所々につけて、山の姿など、よくおぼえぬもあるは、今更に口をし、されどこの旅は、おのれの身に能くかなひて、肥しのみならず、心地もすが〳〵しう成ぬ、かのありし病者のやせ人も、いつしかすくよかになりて、顏色うるはしうたはふれ言などいふほどに成ぬ、かくきゝめ多かるは、名高き醫師といふも、いかで及ばむ、いでや都にも近ければ、とし〴〵に夏はものして、病ひを洗ひてんとぞおもひ成ぬ。

割烹實驗場

香軒生譯

前號の紙上に割烹學校の事、記し置きぬ、今又割烹を實驗する場所につきて或米國の人の意見を述べたるを見る、例により左に短簡に記さん。

紐育府の一部にいと騷がしき所あり、活版屋軒を並べてたつ、其ほとり過ぎたらん人は知らん、或所に淸き水の流れ充つる石の樋あり、そが一面に「疲れたる友よ、近つきて飮め」と彫りつけあるを、近きあたりを過ぐる者は渴を此に消さぬはなし、されど斯く記しあるは啻に此處のみに限らず、尙處々にあらん、是甚だよし、されど

人は飮む事をのみなして生くるに非ず

人の身躰を健かにせんには必らず食する事を要す、されば「疲れたる友よ、近つきて食せよ」と云ふは亦よき警語ならずや、見よ世の人多くは食物につきて深く吟味する事なく、日々己が前に具へられたるまゝ、食するのみ、そが果して身躰に適當の程なるや否やをだに知らざるを、或學者が牧塲にある馬の食物を試驗せるに其種類、分量、諸種の食物の比例甚だ適當なりけりとぞ、人にして適當の食事を取るなくんば遂に獸に

だも及ばざらん、恨めしき事の限ならずや、今日牧塲にある牛馬をもて五十年若くは百年前のものに比較し得ば其躰格の大ひに優れるを見ん、人にしてよく五十年或は百年の間に斯く肉躰上の進歩を見る事ありや、若なくんば此點に於ては牛馬にだも如かざるに非ずや、勿論牛馬の健康上進歩するは食物の學理に合ふ故のみに非ず、獸類には食物を改良せる結果忽ち現はるゝが故あり、今を距る事五十年前農作實驗塲なるもの建てられたり、今日は歐洲のみにて百餘所を越ゆると云ふ、今日是如何ある時ぞ、正しく人類の、

割烹實驗塲を要する時ならずや

試驗の上適當の食物を用ゆるの方法を廻らすべきときあらずや、獨逸の學者は告げて云ふ、一人一日の生命を與ふるには食物の量幾許を要するかと、されど是のみ聞きては足れりとせず、其食物より幾許の滋養分を與ふるや、如何に炊きて可あるや、例せば豆は煮ると燒ると何れがよきや、亦是よりよき方法の他にあるありや、是等の諸問題は皆未だ解明する能はざるものあり。

割烹學未だ進まず

若今日の有樣を以て食物の學充分に進歩せりと考ふるものあらば上に陳列せる諸問題は素より用なからん、されど今日は未だ食物に關する事發達する所僅かにして、已に知り得たる學理も實際に適用するに至らずと思ふ人多からん、健康に關すると否とを問はず、單に家政、經濟の諸點につきても、諸問題の眼前に迫るもの多からん、例せば牛肉の滋養分を最も有効ならしめ、亦食する時に味ひよからしめんには如何にせば可なりやといふが如し、其他無數の問題の解明を要するあり

割烹の器具

割烹に用ゆる器具の事に關しては未だ研究せる所甚だ少し、割烹塲に不潔、不經濟の所ありと罵り、君子は庖厨に近よらず抔云ひしは昔の事、今日は實驗もて割烹の事を定むるの時なり、後世石炭を用ひぬ日來るべしとは確說なるが如し、其代りに用ひんものは瓦斯なるべし、如何なる器を用ひ如何ある方法にて用ひんか、一合の水を暖めんには幾立法尺の瓦斯を要するや、是等未だ解し得ざる諸問題とす、農作實驗塲に於ては酸素を用ひて以て植物の纖根を柔かならしむるの法を發見せり、之を見て

食物の纖維を柔かになす

の必要を何人も感ぜん、若輸出せん爲めに穀物を作りて豐か

に實らしむる方法ありとせば人類の食物を滋食物ならしむる事を發見せざるべからず、現時養家の事に注意する事深きに至り、豕兒の發育につき大ひに研究する所あり、されど是を見ると共に小兒の食物、それより生ずる發育の事につき研究の必要を認めずんばあらず、斯く說き來らば何人も斯る大切の事項の等閑視すべからざるを認めん、されど人或ひは云はん

割烹實驗場遂に何の用ぞや

庖廚の事は料理人の任のみと、五十年の昔農作實驗場の事を聞きて斯く言ひしもの多かりしならん、「農者各田畑を有するに非ずや、農作實驗の場何の用かあらん」と、今日に於ては即ち知りぬ、植えつけ、耕作、收穫、家畜養育法等につきて昔時の農者大ひに研究練習する所少なかりしを、今日一家の妻母たるものは繁多の事務身を纏ひ、割烹實驗の事亦意に任せざるべし、されど各其家内の庖廚を以て實驗場となすは易かるべし、他に

適當の實驗場なし

日々用ひる所の庖廚に於て心を留めて實驗を積まば、裨益する所少なからざるべし、賢こき人は知らん、今日の衛生、割烹の事は未だ發達せざるものある事を、されど充分に研究を爲してよき進步を見ん事は亦難かるべし、之を爲す、只夫れ割烹實驗場を設くるにありとす、此處に於て割烹の方法及ひ種々の器具を比較するを以て始めとなし、進んで諸問題を研究する樣なすべし、ボストン府にプレザント街と云ふあり、此處に一の實驗場を設立せり、之を最初とす、其功益如何につきては未だ云ふ能はず。

跡見花蹊女史肖像

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

曙女史木村榮子の傳（下）

清花女史

……先づ實地修業のため、外國へ留學の事を、親君へ願ひ給ひしが、すきまもる風をも、いとふ撫子を、などて浪路はるけき、外國へ、はおしやりたまふべき、種々といめたまひしかは、遂に後年を期して、一度留學の事を、思ひやみ給ひ、其よりは家業を助け、朝はとく、夜はふくるまで、出入りしげき客人のあしらひ、見世の帳簿の調べなどに身を委ね、一日々々と送る中、ある時ふと思ひたまふやう、文學の中にても物語小說書綴るこそ女子には相應しき業なれ、むかしには、紫式部清少納言などゝ、すぐれたる夫人もあるに、いま此の文明の大御代に、女文學者なきこそ恨みあれとて、すこしのひまを偸みて綴り給ひたる、小說を、婦女のかゞみと、名づけて、始じめて、讀賣新聞に出し、又其頃流行せし、言文一致の文を難じたる說を掲げたまひしより、曙女史の名、世に高く聞へ、當今小說家を花に喩へたる評に、君を女郎花に比するに至れり、其他勇肌、曙染梅新型、の小說、江戸新聞貴女の友等にあらはれ、名作日をおふて世に、出なんと、思ひしに、はからずも、今年五月の頃より、流行感冒に、かゝり其れよりはつやある筆も執るに物うく、風になやめる川邊の柳、たれこめてのみおはせしが、醫師のすゝめによりて、大磯へ入浴したまひたれど、その驗しもなく、歸京の後病おもり、才女薄命の諺に漏れず、いとやさしき母君の、手を枕に、十九の年を一期として、後來ののぞみと共に、むなしく失せたまひぬるぞ、いたはしけれ。

いとし子に先立れし、親君の心如何ばかり、見るもなか〳〵なみだのたね、同胞にもまして、親しみぬる妾の眼には、君が世に在す倣の、今も殘りて、忘れがたく、心苦しき限りあるを、やう〳〵筆とりて、

幾度かよへとこたへはなき君の
かはるおもかけ見るぞ悲しき

あゝあはれなる榮子の君、あゝいとをしき君の英才。

肺病の用心

婦人衛生會の演說會にて、岡田和一郎氏が述べられたうち…………（一）つ…………二つ

肺病患者は、獨逸では男が多く、英吉利、亞米利加では女が多い。日本でも女に多い。西洋では下等社會の人に多いが、

日本では、上等社會の人に多い。傳染を防ぐ法は、肺病の人に近づかぬと第一。肺病の母の乳、を子供に飲まさぬと第二。產婆がとりあげの時赤子に肺病の氣を吹込むとあり、肺病の產婆は用ひぬと第三。牛乳をあたゝめて飲むと、牛にも肺病に似た病ひのものあり第四。

秋夜感懷（上）

雲峯生

夕陽既に光を失ひ、暮天色なし、過雁一行高く鳴く、秋氣轉た身に迫る、燈火未だ點ぜず、書冊已に讀む能はず、窓戶を開ひて黑天を眺む、一陣の夕風音つるゝ時軒端の梢より亂れそむる一葉二葉、庭うつ音いと淋し「穗にいでゝはや招かなんしのすゝき秋こそ人は戀しかりけれ」と、昔の人は歌ひけん實に閑居秋晚の感筆に盡す能はず、或は過去を追想して世路の轉變を嘆じ、或は將來を預想して崎嶇羊腸迂曲極りなき山路に入るが如く感ず、されど沈想靜思する時心をして快樂ならしむるものあり、懷舊の情、即ち之なり、故鄕を想へば我幼き頃より我身に關はる千種万類の聯感續々腦裏に現はれて絕ゆる事なし、父母親戚は今果して如何ならん、飼ひなれし白狗今も閭によつて我屋を守るらん、我遊びし野川、廣原、山岡悉く眼中にあり、我植え置きし庭園の稚木今や紅葉するらん、垣ねの草花今も咲くらん杯思ひ出るものなつかし、余は斯る感情起る時にこそ誠の樂しみを知るなれ、嗚呼懷舊の情起る毎に未だ嘗つて空々然として樂園に遊ぶの感なくんばあらず。

第二の故鄕

生れてしより幾多の年光を過ごしける故鄕、いかでか思ひ出でざらん、余は深く之を思へり、思ふまゝに時移り、夜は深け渡る、天色更に悽然たり、村雲の絕間に星の光、二ッ三ッ見ゆるも寒し、風ふきたえて雨ふり出でぬ、燈光靜かに輝く所窓下に亢坐して机に對す、更に想古の情禁ぜず、街頭夜半柝聲ひゞく、柝聲遠ざかれば盲者笛を吹て門を過ぐ、笛聲哀く々、感禁するなし、時に亦腦裏に浮ふ第二の故鄕、余は之を思ふ毎に亦千万無量の感慨あり、頭を廻らせば千山萬水隔絕して、舊都路迢々たり、されど余の想像は瞬時秒間に遙々飛揚して此に歸る、歸れば即ち見る、懷しき校舍、舊友、山態、水容。

永く記す貧時の交はり

管仲鮑叔永く貧時の交を變ふるなかりしと、變へざるに非ず、變ふる能はざるなり、學窓の交はり、固より豐かならず、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

されど夜深くして星光明かなり、人貧ふして眞友を得、斯る時にこそ深き交わりをなすものなれ、古寮の小室蟄居して日夕孜々書冊に目を晒らすの時僅かに餘時を得て相話せしぞ眞にこよなき樂なりき、今や身は天涯百里遠く東都の塵界にあり、古雄猛志を抱ひて戰路に上ける折にすら數行の過雁月前に悲鳴せし時家郷を想ふて鐵衣を馬上に濕ほしぬ、英雄既に涙あり、此身此境にあり、豈情なからんや、豈舊知故友を思はざらんや、遥に訪ふ舊都の知友恙なきや、否や。

山光水色

春日萬草緑漠々たる所、春霞風にあびく間、菜花一齊に開き、黄色野に滿つ、雲雀の天音を中空に開き、西して行く事數里嵐山に花を眺めしも樂しかりき、山下の清流、青潭とあり、波清く、音靜まり首を低るれば花影水底にあり、亦頭を揚ぐれば花梢に滿つる所一葉の輕舟を放つて學窓の精勞を拂ひしも樂しかりけり、詩人此景を夢みて歌ひけり

想像名花魂欲銷　春風東望路迢々
閑窓昨夜三更夢　吟過嵐山渡月橋

夏日校舍閉づるの時或は深山ゝ暑を避け、或は海邊に身を養ひし事もあり、懷顧すれば何れ樂しからぬはなし、されど秋日の遊樂を最とす、愛宕山下溪水岩に激し、青音快きほとり閑室に宿り、入つては知友と團欒して親しき集ひをなし、出ては青松風爽かある下に秋香を探りし事もあり、三尾の紅葉秋闌なる項溪上の茅屋に端坐して美を稱へし事もあり、秋草漸く老ひて露地に滿つれば虫聲四方に繁く、嵯峨野の奥に身を捨てし、昔の人のゆくへまで、さやかに見ゆる月影に袖を絞りけるも樂しかりき。

白雪の北山に見ゆる頃より吹風寒く、木の葉亂るゝ冬となり、或は網を曳て稻荷山に狡兎を驅り、或は銃砲を肩にして鞍馬山に猛猪を追ひ、外にあつては寒風凍雨に勇氣を鼓し、内にあつては學びの道をふみたどりぬ、鴨河水涸て凍餘月になくの夜夢さめ來つて六々山頭を眺め明せしも今記する所あり。

女學生、客あしらひ

米國ウイルソン大學に留學中の、塚本ふじ女史通信のはしに、

……當校のありさまに付き、今一つ嗚呼樂しき住きと哉と感じ侍りしは、昨土曜日夜のりセプシヨン（懇親會）にて候ひき、此は毎學年のはじめ、新入生多く入り來りて未だ舊き學生と親しみあらざるとを憾みとし、前年より習學せる舊生徒

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

主人となりて新入生をもてなすの趣向に候、其時は博士も敎授も校長も皆うちくつろぎて懇話し、新舊ともに一和するの集まりにて、總生徒を當校に結付くる鎖の如きものかと思はれひたすら感ぜられ候。

之に付け、御目論見の別舍主義いたく贊成申し上げ候、獨り室内にて女學ざつし打ひろげ、唯一つの舊友と物語る心地にて、日本將來の女子敎育運動に付きいろ〳〵と想像をめぐらし、益々別舍主義を贊成いたし候。

牛乳の飲み方

みさを

英國の某新聞牛乳の功用に關し、一文を掲げて云はく牛乳は其用法如何によつて功能甚だ多く、疲勞する時、コップに一杯を用ひば忽ち神氣爽然たるべし、之を用ゆる時は飲み得る程に温めて極く靜かに飲むべし、即ち食匕一杯位より多からぬ量を一度に飲み、少くとも四分間を費して一杯を飲むべし、其滋養分忽ち神經を刺戟して心自ら活潑なるに至る、牛乳は胃腑に入ると直ちに凝結するものなり、故に多量のものを一度に飮ば、それが一塊となりて其内部の滋養分は遂に吸收する事なくして腸に下るものなり、若食匕にて少しつゝ呑む時は一呑毎に一塊となりて其滋養分は乍ち漿液の作用によりて吸收せらる、それ故に其内にある滋養分は皆身躰を養ふの用に充るを得、人多くは牛乳を用ゆる爲めに胃力を弱くし消化を鈍くすと誤解すされど先に述ぶる如き方法にて用ひなば少しも斯る憂ひなし、牛乳は温むるによつて量も減じ、味も減ずるが如く見ゆれども其功能は多し、熱き食物は冷たきものに比して功能多き事は少しく健康に注意する人のよく知る所なり、氷を飮めば不消化を來し、温かきものは茶の如く功能ある事明かなり云々と、未だ牛乳の用法をよく知るものあるまじ、實に大切の事項と信ずる故斯く譯して大方の讀者につぐ。

通俗理解

問　樹かげのすゞしき譯は

樹の葉日光を遮り斷つがゆゑ其一つ也。日光を遮ぎるによつて地面熱をうくると少なく隨がつて熱を反射すると薄きがゆえ其二つ也。樹の葉は熱を導かぬものにて熱に對する不導躰と云ふ、光線を通さぬのみか熱をも通さぬがゆえ其三つ也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

問　ペンキを塗るは何の利益

木の表てを包み、空氣又は水蒸氣などが樹脉の小さき孔に入るを防ぎ、腐敗の元を止む其一也。ペンキは不導脉にして、木の溫度に甚はだしき變化を生ずるを防ぐと其二也。木の小孔を塞ぐによつて虫など其內に生息せず、隨がつて蝕ばむとを防ぐ其三也。

問　水面には露生ぜぬか

太洋をわたる船人云へらく、大わだつみの眞中にては露を見ず、太陸に近づくに隨がつて露を見る、されば露の降るを見て陸の近きとを察すと。

問　何故へ水面には露なきか

表面の水冷却すれば重くなりて下に降り、やゝ溫たかきもの代りて表面に出づ、故に深き水の表面はいつ迄も溫たかにして水表の空氣を冷却するとなし、こゝを以て其水の表の空氣中の水蒸氣凝結するとなし、隨がつて露なし。

○万國發行新聞紙の數

近ごろの調査に據るに、各國にて發行する主なる新聞紙の數左の如し

米合衆國	一二五〇〇	獨逸	五五〇〇
ベルジウム	三〇〇	佛蘭西	四一〇〇
和蘭	三〇〇	英吉利	四〇〇〇
カナダ	七〇〇	アウストリア、ホンガリー	三五〇〇
澳太利亞	七〇〇	伊太利	一四〇〇
日本	二〇〇	スペイン	八五〇
亞弗利加（雜誌）	二	瑞士亞	八〇〇
布哇（新誌）	三	スヰツルランド	四五〇
合計	四万一千種		

此內英語のもの一七〇〇〇、獨逸語のもの七五〇〇、佛蘭西語のもの六八〇〇、イスパニア語のもの一八〇〇、伊太利亞語のもの一五〇〇なり。

小說

新天路歷程

湘川漁夫譯

若松しづ子、いたつき輕からず、容易すく筆とりにくければ、セドリツク出立の段にて一と先づ止め、三回ほど其つゞきを休む。此間だに、右新天路歷程を掲載す。讀む人は、ホワイト氏譯の天路歷程を一覽し、さてよく〳〵此を味わふべし。考ふると足らずんば、思ひあたるとも尠なかるべし。編者しるす。

第一回　發足

程經し頃にも非りしが、夢路を辿りて、彼の名高き滅亡城に到りしに、市府は近代の開化に伴ひて、愈繁榮に趣き、其住民の公共心に富るより、此頃新たに鉄道を築き、此市府と天城府との間に交通の便を開たるは、最も深く余の心に感覺を

起さしめたり。余は之に動かされ、奇を探るの念、起り來りて止み難く、宿料を拂ひて直に旅店を辭し、一輛の馬車を雇ひ、男を呼び、荷物を運ばせて、車の後の方に置き、停車塲を指して走せ行きしに、途中にて折も能く、余が身に取りて最も便益を與ふる、一人の旅伴を得たり。此人の名は世渡滑といひ、滅亡府の住者にして、未だ自ら天城府に到りし事なしとはきけど、其地理、風俗、政治、統計等の事に委しく、且つ其身は鐵道會社の役員にて、又多數の株の所有者なれば、新事業の計畫其外總て余の問ふ所に應じ、一々說明の勞を取れり。

馬車はガラガラと市府を走せ出でゝ町外れの方に到りしに、忽ち一の美麗なる橋に乘り懸れり。其橋の形は美は美なれども、能く多分の重量を支へ得るや、余は頗る疑を心中に起しぬ。橋の兩面を見渡せば、世界の汚物を盡く吐き捨てたるかと思るゝ程の、目も鼻も當られぬ汚水の充滿せる大沼あり。滑は余を顧み、

是は名高き落膽の沼なり、是は實に近傍の恥辱と言ふべし、容易く固土に變じ得まじと思へば何更にト

囁き言へるを余は打ち消し、

知ぬ昔より其企圖ありしと聞しが、パンヤンも脩身敎を車に積、二万臺も投入しが、無効ありしと記るならずやト

いへば、滑は頭を掉り、

左もあるべし、左もあるべし、斯る雜物は何程多く投げ入れしとて効のあるべき者にあらず。君は此の大橋を見られしならん。此の橋の土臺は道義學、佛蘭士哲學、獨逸合理論の著書、新敎法師の說敎及び講義筆記、プラトウ、孔子及び印土聖人敎誡の拔萃、其外聖敎新註釋の書類等を積み重ね、科學の原理を應用し、御影石の如に固附たるなり。此等の材料を用ば、此大沼の全積も、塡盡ぬ事やはあるト

誇り顏にて說き出だせり。

實をいへば橋は橫縱上下、甚しく震動するが如く感ぜられたれば、其土臺の堅牢につき、滑の固き保證にも拘らず、余は余と余が旅伴の如く、重き荷物を携へては、多人數と共に渡らんとは試みまじと、潜に心に危めり。去れど余等は先づ無難に橋を渡り越し、直ちに身を停車塲の前に留けり。此壯麗ある建築の傍に小門あり。此小門は舊き旅客の知るが如く、道路の中央にありて、其入口の至て狹より久く大度大量の者の妨害となり居りし處ろなり。パンヤンの讀者は喜ろこび聞

くあらん、常に著物を旅人に與へて其道案内をなして、ありし、クッスチャンの舊友なる傳道師は、今は雇はれて切符賣渡所にあり。或人は傳道師の此尊貴なる行狀を疑ひ、却て其僞人なるを譏すれど、余に於ては其は兎も角も、古風なる羊の皮の著物より、輕便なる小弓形の、張紙切符の大に勝れるを喜べり。其果して天城府にて用ひらるゝと否とに於ては、余の與り知るとにあらざりき。

多數の旅客は既に停車場に詰め懸けたるが、其風躰を窺ひ見れば、世の進歩に隨ひて、天路の旅行も大に昔と變りたるが如し。若しバンヤンをして、見せしめなば、必らず滿足せしなるべし。重荷を脊負ひ、憂に沈み、後より町内の人に呼び囃されつゝ、疲れ果てたる旅人の、歩立にて辿り歩むに引き替へ、此處に集れるは、滅亡府の上等市民及び其近傍の紳士等にて、笑ひ語りつ、天城府に向て出發する有様は、恰も夏遊山の旅行にても爲すが如し。其中には官吏あり、政治家あり、財産家あり、此等の人々の模範によらば、宗教の感化は疑ひもなく、卑き下々の兄弟にまで及びたるなるべし。貴女の室には、天城府最上社會の粧飾としても、愧づべき所なかるべき、交際社會の花あり。談話の題は世間の風評、政治、職業、若しくは遊戲の事等にて、宗教は勿論心の奥の大切なる事柄あるべしとは雖も、輕々しく表面に現さゞれば、假令不信者の聽きたりとて、感情を害ふべき事もなかりき。

新旅行の便利として決して忘る可からざるとあり。其一は、余等の所持する、重き荷は、肩に荷ふの必要なく、皆車に積み載せ行き、余が解する所にては、旅路の終りに達する時再び余等の手に入る事と、又一は、ベルゼブル大王と、鐵道會社との間に、平和の新條約を結べる事なり。昔は讀者の知るが如く、小門の番人と、大王との間に、常に絶えざる爭ひありて、旅人の門を敲く時、王の手下は、毒矢を射かくる習慣なりしが、利を見るに敏き會社の役員は、早くも其無益なるを悟り、互に相讓り、大王の配下を雇ひ入れて、調和の策を立つるに至れり。去れば其配下の多人數は、停車場の内に働き居り、荷物を扱ふ者あり、石炭を運ぶ者あり、機關に水を與ふる者あり。其業務に勵み、旅客に懇なるは、他の鐵道の比し得べき所に非ず。心ある人は、昔の困難に對し、斯く滿足に調和の就りしを、喜ばざる者はなかるべし。

善意は何處に行きたるか、會社は必らず彼の名高き勇者に車長の任をも與へしならんと。

余は問ひ掛くれば、滑は乾きたる咳拂し、

否とよ、彼は近頃年老いて、甚だ偏屈の心となり、舊來より

旅人を導き歩行く習慣に染み泥み、他の法を皆罪となし、忌み嫌へるのみあらず、常にベルゼブルの手下と爭ひ、平和を破るの恐あれば、彼れが天城に出奔し、余等をして自由に適當なる後役を、擇ばしむるに至りしは、却て余等の幸福にて今更惜むべき事に非ずと、

答へつゝ、

向に見ゆるは車長あり、君は或は見知れるならんト

前面の方を指せり。

須臾にして機關車は、列車の前に走せ來りしが、其形の恐ろし氣なる器械作りの惡鬼とも言ふべく、余が目に見ゆる所にては、天城旅行に用ふべき、貴重の道具と言はんより、焦熱地獄に回り行く、火輪車なるかと怪まる。其眞鍮胴より噴き出せる、烟と焔の中に包まれ、其上に坐せる者あり。其人の口と腹とよりも又火焔を噴き出だせり。

アナ恐ろし余が眼は惑へるか彼は何者ぞ、人か鬼か、さらば乘り居る機關の兄弟なるかト

余は駭けば、滑は高笑、

笑止や、君の物に疎き、謙遜ケ谷にて激戰せし、クリスチヤンの仇敵なる、アポリオンを知らざるか。彼は機關を扱ひ居り、會社は彼と平和を結び、車長の役に雇へるなりト

說き示せり。余は思はず聲を發し、

佳哉佳哉、是れ皆近代の自由思想を示すに足る、此の如くに行はれなば、總て世の中の固執偏僻は、忽ち迹を絕つに至らん。此舊敵の變化をきかば、クリスチヤンも喜ぶならん、天城に着する時余は直ちに之を告げんト

頻に感情を動かしぬ。

旅客は各其坐に就き、クリスチヤンの一日路の舊旅程を、僅か十分間にて行き過ぎし、皆樂しげに乘り出せり。窓より外を眺めつゝ、風と余等の見當れるは、舊順禮の旅装にて、手には例の巻物を携へ、肩には大なる荷物を負ひ、歩める二個の旅人なり。近代の開化の便利を嫌ひ、折々歎き屢々躓き、態々小徑を辿り行く、正直者の舊弊なるに、車中の旅客は笑を催し、戲け弄りて挨拶せしを、二人は却て哀憐を含む、顏色にて見返りたれば、一同尙益々興に入れり。アポリオンも亦面白さに堪へ兼ね、機關車より烟を出たし、己が口より焔煥を吐き、二人の面に吹き懸け、或は蒸氣にて二人を包み、頻に嘲弄を試みけり。此戲れに余等は暫く心を慰めしが、旅人は却て迫害を受る備敎者と心得自ら滿足せし狀にてありき。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○日本社會事業 （上卷）

日本人名字書につゞく大著作なり、而して共に同一の社の手に成る。經濟雜誌社が發賣するに、餘りありと云ふべし。此卷はアよりコに至る、二千〇七十五頁にして、古今社會の出來事大抵は網羅したり。而して筆の繁簡、事件に隨つて同じからず、歌及び遊女町の二項の如きには、各々三十七八頁の記事あり。毎頁太古より叙し來りて昨今の事に及び、切要の事柄にして漏れたるはいと〳〵稀れなり。人名字書に優る數等の出來なり。

吾社員嘗て演説著作材料新誌を編輯し、其發行の主旨書に於て言ひけらく、和漢の書籍と歐米の書籍とを比較して先づ第一に承知し得べき兩方の相違は彼に見出しありて此に無きの一事なり、何故へ彼には便利の案内ありて我には特更に之を欠くやと問ふに、此れ西洋と東洋との學風大に相違する所以にして、文化の性質の全く相異なる因縁、此の一事によりて承知せらるゝ。蓋し西洋の學問は、物を識ることを尊ばずして考出すことを尊とみ、東洋の學問は、考出すことを重んぜずして舊知を識すことを旨としたり。故を以て、一卷の書は悉とく讀了るべし、惣ての書は悉とく通覽すべしと規し、便利速了の途を備ふるを以て、斯道を毒する甚だしき者と做しける。東洋學の進歩せざるは、一に此の氣象に因縁す。此を以て、西洋學の如く、創考新窮の氣風を養成して、かゝる宿弊を打破すると切要なり。其手段の第一として、事彙類集の如き便利なる大册子を出版するを好しとす。

社會事彙の出づるや、讀者が至大の便利たるとは言ふ迄もなく、之よりして只だ博覽强記を以て誇りとするものは、最早顏色なきに至るべし。尤も多く字を知るものは、エブスター氏の字書にして、尤博く事柄を知るものは此社會事彙なりと云はるゝの日に至らば、文士が勉むべき所ろのものは、たゞ創考新窮にのみ存するとゝなるべし。斯くして學風一變の首途とあらん。社會事彙の世に出でたると、益々つて大ひなり。

此の精神によりて本書に憾みとする所は、其便利を供ふるの方未だ備わらざるの一點にあり。いろは別を用ゐずして五十音別にしたるは頗ぶる不便あり。卷末に見出を附ざるによつて引出方甚だ面倒なり。卷頭に引用書目を列擧せざるによつ

て研究者の爲めに勞を省くと渺し。毎項の末にアウツリテー(參考書)の注意を與へざるは極めて遺憾なり。專門學的の讀方にカナを附けざるは亦殘り惜し。定價八圓、下卷近刊。

○日本文學史（上卷）

三上參次、高津鍬三郎二氏の合著にして、落合直文氏補助たり。日本文學史の先頭なれば、初めより多くは望まざれど待ちしと甚はだ切なり。開き見るに、四百五十頁の大本にして、總論と、日本文學の起源及發達と、奈良、平安二朝の文學とを載す。

總論には左したる名論なし、文學と云ふ者の解釋に著じるしく苦心せられたるが如けれど、抑そも文學に學の字を附し之を一の學として見做すがゆえに人多く誤解するとあり。修辭學の外に文學など云ふべきものあらんやうなし。文學とは即はち文章の謂ひなり、文章を所謂る文學的に觀察すとは即はち之を修辭學上より觀察するの謂なるべし。斯の如くんば、文學の重々しき解釋は遂に無効に歸せんとす。日本上古文字有無の論、簡にして能く盡せり、然れど上古何等の象字もあらざりしかの如くに論定し、言靈のさきはふ國とて只だ言語のみによつて通用せしかの如くに速斷し去るは、少しく遺憾なり。亦た文字有無の論に續き、日本人種傳來の事に論及し、上古の風俗を多少研究すると、文學史の爲め特に切要なり、著者云く、國文學を構成する個條三つ、國民固有の特性其第一也(廿六頁)と、蓋しテイン氏の說に據るなり、然らば亦テイン氏の如く人種論に及ぶを相應しきとす、著者は遂に一言も之に論及せざりき。

奈良平安二朝の文章を撰出したる所ろ、能く行渡りて遺す所ろなし。讀者に大躰の智識を與ふるに付きては遺憾なしと云ふべし。特に作者の小傳をかゝげ、間ま、作者と作者と並に其文章とを比較し、個々のキヤラクターを描寫したる所ろに至つては、西洋文學史に倣ひ能く其美を得たるものとす。

要するに、文學史の嚆矢にして亦在ふれたる文學史論の第一に位するとを得。著者が苦心の尋常ならざりしとを推察し、日本文學の爲に厚く感謝す。吾人今一個の日本文學史を得たり。

○基督教神學　美以美出版會社發行

人信なくんば立たず、信仰なき人は風前のもみがらの如し、今や敎理に關するの議論紛々として麻の亂れたるに彷彿たり、此際正面より基督教を研究して毫も敵に傍見をふらざるの勇氣亦た必要なるべし、米國人アスベレ、ラオレー氏が著此の精神に發し、山田寅之助氏が譯述せられたるの主旨亦た此な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り。題して「基督敎神學」と云ふ。神學と總稱するほどの大議論はなけれど、兎に角よく聖經を讀みたる人の立論なり。譯文少しく難澁なれど、意味を瞭解するに餘りあり。

(101) 日本婦女用文（中本一冊三百十頁正價三十錢 東京本石町三丁目 博文堂）

佐々木信綱氏の著なり。往復文一百八十篇、消息文沿革考、並に中世近世に於ける著名の消息文を類聚し、頭書にフミと云ふもの〻解釋より、歌、歌集など云へるもの何くれとなく畧述したり。此類の著書中にては、先づ最上に位し得べきもの〻一つにてはあれど、其文例を示すの點に於て兎角同一の短所を現はすぞ遺憾なる。凡そ文例を示さんとするものは、初めに先づ、熟字、掛詞等を掲げ置き、扨て此を程好く組合せて章につゞり、一に作文の工夫を敎へ、二つに、例文としての文脉を示すと肝要なり。西洋の作文敎科書は、皆な然り。鈴木弘恭氏が通信女學講義錄に於て敎授ありける方法も亦然なりき。此書上に云へる良方法を用いざりしは頗ぶる殘念なりと云へど、文例の文字文法並に頭書の工夫など、尋常の手ぎはにはあらず。まづ／＼上出來の中に數へ入るゝとも、差支へなけん。

＊ ◎ ＊ ◎ ＊

寄送批評

○愛山生の評を讀む

叢菊野史

余は女學雜誌第二百三十五號に於て在遠江愛山生の起稿されたる女學雜誌の評を一讀し其の峻峭奇拔なるに感ぜり料からざりき遠江の國に此の如き卓識家あらんとは余は伊豆人なれば苟も同縣下たる遠江に文人學者あらんには之を聞及べき筈なるに今日まで君の名を知らざりしは實に迂濶の至にして自ら慚愧に耐へず平生遠江に金原明善氏ある奇傑の士あるを聞けども未だ文學上の才子あるを知らざりしは燈臺下暗きが類歟

先きに文學士山田一郎氏靜岡に來り筆を靜岡大務新聞に揮ふや一縣下の文人顏色なし此の時に當りて君は何の處にか居られたる本縣下に一の山田一郎氏と一の遠江保氏來遊して其の名を逞ふす未だ他に此の二氏と匹偶すべき文人あるを思ばざりしに君が女學雜誌に寄稿して女學記者の賞賛を受け凡手に非ずと言はれ且つ嘗つて關新助君を演述して加藤大學總理に舌を卷かせたる批評家なりと稱せらるゝは余が歡喜止むと能はざる所なり蛟龍は永く池中の物に非ず君の文章が早く既に加藤氏を驚かせしは實に錐の袋を逸せしならん其の名未だ縣下に知られずして獨り大學總理と女學記者に賛せらる其の榮も亦た大なり將來君が文章批評に於ける功は金原氏が堤防に於ける功に等しからん歟將た毛錐が楚王を脅かせし蹟に似たる所あらん歟

抑も愛山生は何人ぞ其の文に因りて之を觀れば恐く和漢洋の文學に通じ殊に聖經に明なるが如し思ふに是れ傳道者なるか或は單に基督敎信徒なるか其の論鋒銳利にして堅碎けざるなし其の女學雜誌を稱揚するや厚く之を非難するや切なり實に是れ備を君子に責るの意にして女學雜誌對症の良藥ならん遠江の暴風松根を崩くすとは善くも言れたり女學記者の此の口に苦き良藥を嫌はざる度量あるは感服の至なり余亦平生女學雜誌を理性よりも感情に長ずとせり則ち哲學者よりも寧ろ詩人也と思へり古來社會改良家は大抵感情を本として立論せり故にルーソーも、ペンリージョージも皆な感情的の人なり女學記者も既に一種の改良家たる以上は亦た多少感情的の人ならん今や文學の中央集權甚し其の地方分權を促す者は愛山生其の人ならん地方文學を興すの天職は其の一身に懸らん余は其の文が蕩々として遠江洋の濤の如く世上の害物を盡く顚覆せんを望む君何ぞ姓名を明言せざる君が功を成して名を辭するは君子の事ならんが余は世人と共に之を恨む

然りと雖も加藤氏の驚駭と女學記者の賞嘆は未だ遠江の眉山を爲すに足らず愛山生幸に勉めよや

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

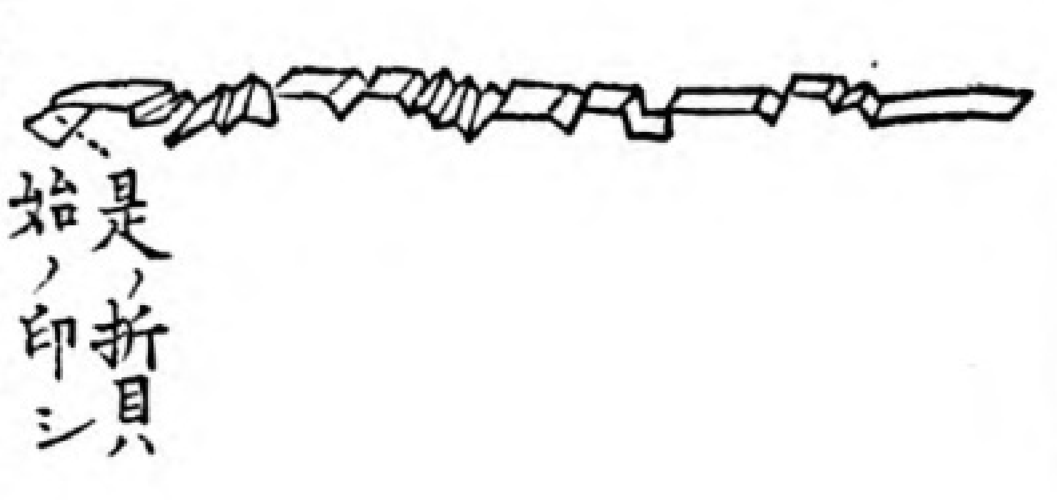
寄書

暗記誦學

（鳥取通信員）茂山松造

愛姫縣人古冨米三郎氏、寫音器を發明したるよし、本號の通信片々に見ゆ。然るに鳥取通信員の報ずる所によれば、彼地に於ても亦た暗記誦學の新工夫を發明したるものある由、未だ聞かざるヿなれば左に掲ぐ。發明者は兎角世に知られず切角の辛勞をみす〳〵輕薄人の爲めに沒せらるゝヿ多し、吾人常に之を歎くを以て、殊に此の報告を全載す。

余は此頃友人古臼田千代吉氏を鳥取市東町二百五十六番地なる其宅に訪ひ氏の發明に係る暗記誦學の事を問ひたり氏は二十一二才の青年にて此の發明の爲めには隨分苦心を積み來りしなり暗記誦學なれば目を用いず又筆等を用いずして如何なる場處にても或る事柄を記し且つ讀むの術なり故に此術に依れば盲人同士互に書簡の通信をなすを得る又た容易なりとす」氏は最初常に演說文章等の材料を集むる事を力めたるに夜中及び歩行中偶然出で來る思想を失念するヿ甚だ惜まれて茲に始めて如何なる場處にありても（懷中にても）目を用いず其事を記するの器械を作らんことを發明し其れより二年間程種々苦心して十箇程の器械を作りしも實用に適せずして終に一箇の適意なる器械を作り得たり（此時氏は余に其の器械を示したるに卷煙草入の如き物にて之を開けば金屬製の種になる仕掛ありて一定の符合を以て如何なる事も記し得る樣甚だ自由なり）是で袴の下にても夜中歩行中にも只だ其のチツに由りて用を達するを得たりと思ひ居たるに遂に其の用の甚だ狹きを悟りたり即はち其何人も其の器械を所持せざる事と明處に非れば讀むを能はざるの二ヶの不都合を廢せんと思起したるより又たもや金物細工師の許に毎日消光し殆ど一年にて再び一ヶの簡便なる金屬製の器を作り今度は糸を以て先の紙に代へ（前のは紙に鉛筆にて記する筈なりし）其の結びの節々の距離等種々の方法にて是も如何なる處にても是を使用し而して暗處にても讀み得る（觸覺にて）の器なり其後ち又た其器の如何にも不細工にして尙ほ簡便なる方法の有り得る如く感ず遂に種々考案を變し或は失敗したる後ち單に紙線と指の作用によりて十分なる成行を得たり其法は畵洋紙の反古の如き紙を幅ば一分程に切り長く續けて之を卷き置き使用の時は兩手の拇指食指にて之に折目を付け其の符號を拇指にて探り讀むの法なり（此時氏は余の話に應じて下圖の如く故ら大なる紙に明瞭に「女學」なる符號を瞬く間に作りたり其の迅速なる預想外なりし）紙少しく堅く折目强き故一旦之を伸ばしたる上も尙ほ十分の用を達すと云ふ又た氏は旅行中非常の便益を得たりと云ふ其は固より此の法にて算術等も出來る故車代茶代及び日記等は滊車中人力車上にても人の見ざる衣袖にても之を記するを得るを以てなり又た演說の草稿目錄等もズボンのカクシ中にて之を探り思起すを得可きなり又た紙なき時には簡便なる事は藥片にても用を爲すヿを得るを以てなり、是れを以て盲人と常人と交通するを得るなり是は此の紙片を書簡中に入れ他人へ傳ふるを得可し」右の方法により盲人及び常人の志願者を集め教授を始めたるも未だ二旬に達せざる內事ありて上京し文部省編輯局長伊澤修二氏へ右の方法を面談したるに仝氏は是は大に盲啞學校の利益たらん故仝校長に付き十分討究す可しとの諭を受け其れより東京盲啞學校へ毎日到りて樣子を見て後ち校長小西信八氏と種々辨論したるに仝校にて盲生を敎ゆるヿは佛人ブレール氏の金板にて打出しの紙を用い居りて氏の紙線論を甚だ拒みし有樣なりしも氏は余の方法は決して盲人のみならず重もに常人を目的になしたるにて又器械を用ゆるに及ばず是を以て盲人と常人の交通も出來きブレール氏器械の如きも有せずして濟む



の便ありと述べたるに校長は遂に之を拒まれたるも到底其の要領を解し得ざりしと云ふ結局小西校長は不可を唱へ出來れば行へとのヿなりし故氏は余も已れの方法のブレール氏法に勝るを信ずる厚きを以て必ず行ひ見る可しと斷言し歸りたりと云ふ右は本年八月一日のヿなりとす後ち在京鳥取縣知事此事を聞き又た伊澤修二氏へ面談せしめんと盡力したるも仝氏不在にて次官をと求めたるも又た不在なりしより視學官小杉氏へ面談せしめられ種々談話したるに視學官は氏を是非とも盲啞學校へ雇入るゝの利益なるを信じ伊澤氏も仝感なれば左樣ありて益々改良發明せしめんとする旨ありたりと云ふ然れども臼田氏は已れの方法を採用せずして已れの身體のみを採用せらるゝは甚だ不都合なりと感じ是非とも是を大成し改良を加へ速記の如き領分にも押込まんと謀り又た是は盲人のみを目的としたる方法に非る故若し盲學の方へ轉用するに付きては尙ほ數多の發明改良應用等を企てざる可らずして第一打出紙の如きを用ゆるも硬き鋭き金工にて畵洋紙の如きに押へ記して暗誦の用に供せざる可らず又たブレール氏金板にも應用せざる可らずと云へり是時氏はブレール氏金板により打出したるアーベーセーの符號を示したるに最も多きもの、六ヶの符號ありたり然るに氏の紙線の符號を此の金板に應用する時は七ヶの原號に七ヶの傍號を乘じ四十九字の標を作るを得而して最も多き氏の符標も六ヶにて事濟むなり殊に母音と子音の二字を（ブレール氏法の如く）を合せずして一の假名を現はすを得て完全なりしには氏自らも大に驚きしとなり是も盲啞學校に就ての事柄の內なりとす」其の後氏は履歷を出す可きを命ぜられ出したるも是非とも此より已れの意見通りを貫き又た尙ほ餘り居る種々の發明に從事する決心なり而して歸后未だ日數を經ず其の集りし生徒も未だ多からざるも二三ヶ月にて普通の記號は自由に使用するに至る可けれど速記的のものは未だ大成せず又た生徒も中々急に學び得ざる可しと云へり而して其の學校には常人の方多くして又た盲人は糊口の爲め定時間に來る能はずして速には進まざれど女子の敏捷なるには甚だ適當し居りて餘程望みありと云へり、時間の餘り長くなりしを以て是れにて余は辭し去れり。

時事

○女學校長と廊下

島根縣尋常師範學校長齋藤熊太郎氏は、同女子部の廊下を架設するに、成規の手續を經ず工事を專行したる段、不都合なりとて去二十七日譴責せられぬ。今の官の女學校長は、廊下を無斷に立てたりとて譴らるゝ位のものなるにや、さてさて欠點の少なき人々かな。

○學問あることを覺ゆる勿れ

疑ることを勿れ、疑ることなきは喩へば馬に乘つて馬と我と自から動くが如くなれ、とは福澤諭吉氏が毎度其塾生に教示する所なり。此頃も亦た同一の筆法にて演說を爲し、人間壯健なれば、身躰髮膚何處に存するかを忘る、特に之を覺るの處ろは則はち病ひのある處ろなり、精神の健康も亦如此し、何の學問あり、何の長所ありと、自から覺知して疑を生ずれば則はち玆に精神上の病を發すと。比喩面白しと云へども、論旨に至つては例の如く感服しがたし。但し氏が、資性のグレート(英大)なる所ろ十分に現はる、惜むらくは此人をして更に眞實ならしめざることを。或人後藤伯を評して、大ひなることは實に大ひなり、但だ至誠ならざるによつて老西郷たることを得ずと言ひぬ。吾人が三田翁を見ると常に亦如此し。

○二個の豪聞、幽滅す

小島官吾氏は、市會に於て宇川盛三郎氏が再當撰の不可なることを手ひどく論詰し、市會議場に光焰万丈を煥發せしめたりき。立憲自由黨の藤田孫平氏は、天長節大夜會に衆議院議員が、招きに應ずるの不都合なることを、慷慨痛論したり、恰かも八万騎優悠者中に一の大久保を見るの觀ありき。然れども、兩々ともに煙滅してあとなし、たとへば幽靈の足なきが如し。素より夫々の事情もありつらんが、如何にも殘り惜しき事にてありける。

○國家

日本と云ひ、國家と云ふ、文字頗ぶるよろし、言ふ心亦甚はだ宜ろし。然れども、かく言ふ所ろの輩らは、今少し日本なるものを大きく見て、即はち世界に比べ小さく見て、日本そのものゝ運命を深く考ふる所ろあらざる可らず。現時の論客に大經綸の覺悟乏し。抑そも日本を何如にせんとする乎と問はば、忙然として自失せざるもの殆んど稀れ也。

○世に新らしきものなし

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

日出で、西に入り、草生ひて又枯る。傳道者の言に、世に新らしきものなしと言ひぬ。果して眞か。今の世相、徳川氏の末路に似たりと論ろふもの尠からず、氷川老翁得意に辨ずるのみならず、櫻痴居士すら當こすつて述べたり。議員が官員らしくなりはせぬ乎。改革主義の新聞が商賣風になりはせぬ乎。新らしき政黨がもと〳〵に成りはせぬ乎。藩閥を打破するものが第二の藩閥と爲りはせぬ乎。要するに、今後の議院は、元の衆議所となり、轉々として玉をコロガスが如く、またく〳〵いつも〳〵同じき所ろに返りはせぬ乎。とは、大道居士が、慨然長眼して、深く歎ずる所ろのもの也。

○長遠高久

人信なくんば立たず、國信なくんば立たず。人生れ代わらずんば進まず、國洗禮を受けずんば新らしきとなし。あゝ誰か邦家百年の大計に着目するものぞ。

○廢娼論者目下の覺悟

島田三郎、植村正久、根本正、湯淺二郎、小島官吾、三宅雄二郎、渡瀬寅二郎、飯野吉三郎、巖本善治の諸氏は、東京廢娼會の爲めに協議し、第一帝國議會に對する廢娼上の運動法を議定したり、則はち全國の諸廢娼會及び府下に於ける同志の四團躰に協力し、一層世人を動かし、且つ衆議員を動かし、以て少なくとも今年必らずや妓樓主人の撰擧權を滅ぼさんとを決心す。全國同志の人希はくは協贊せよ。

○廢娼運動彌隆盛

鳴子鳴らざるに非ず、雀横着になりて感ぜざるのみ。廢娼運動下火になれりなど言へるものは、頑くなにして聾しひし、其聲を聞かざるによる。特に、山梨縣下の如き、神奈川縣下の如き、東京府下の如き、目下實に廢娼運動尤とも手固きの所ろに達し居る也。

○中正日報

既に「日本」あり、近ごろ「自由新聞」を加へぬ、今また「中正日報」を得たり。餅は、人々に宛れがたきものなれ、氣骨なき、コンニヤク人物に優る万々なりとす。吾人は、追々かゝる眞面目の新聞紙を得ることを、國家の爲に慶賀す。須からく火花を散らして戰ふべし。正々堂々と撃合ふべし。是れ眞理の爲めの益也。

○コフヒー

坊間に販賣するコフヒー入角砂糖と稱するものあり、之が化學的及び顯微鏡試驗を施行するに、大抵はチコリー又は一回煎出せる滓を細末となして少量の眞コフヒーを混ぜたる不眞品に過ぎず、コフヒー代價品と明言すれば暫らく恕する所あるべしと雖ども、然らざる以上は需用者を欺むくものにあらざるか(大日本衛生會雜誌)

○食物試驗

「只管ら衛生の主旨に隨がひ、和洋折衷の調理を、會員互ひに研窮し、料品の滋養の多少等は親しく衛生試驗所の分析を請ひ、物價を廉にして滋養食物を研窮し、調理を併せて鹽梅の精巧を得せしめん事」を主旨とし、婦人衛生會の附屬てふ名義もて、同會員中の有志婦人卒先し、衛生食物研窮會を起す。會は飯田町六丁目七番地岡田スミ女史方にあり。本號雜錄に言へる料理試驗場すでに我國に其類を起しぬ。喜ぶべき有益の趨向なりと云ふべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文論

み、れ、

●長崎觀田舍主、當時英文讀錄の種類は甚だ少なき故御問ひの如き種類の雜誌は多分ありますまい、是ある事もなき故問ひ正す方法もありませんから確答はできません○原書研究の爲め參考書となすには如何なる書物が宜しきやとの御問ひ、大抵今日では御示名の書物位がよきものでしよふ、マコレーのミルトン論も譯してありますが是も御存じと思ひますが他によろきしものはない樣です。

●二種の文明史、同じき人に云ひます、ギゾーの文明史とバックルの文明史とでは何れが解し易きやとの御問ひ、ギゾーの文明史といふは原書ですか英譯の方ですか、英譯なればバックルのよりは少し解し易い樣です、勿論文章の躰裁も異りますから人によつて難易も違ひましよふ、而し概し云へばギゾーの方解し易き樣です●希臘と羅馬の古代史は多くあつて如何なるものが最も宜しいか存じません、歷史家は大抵一方に僻して居りますからよき所もあれば亦欠點もありましよう、色々讀みて參考するのが宜しいでしよふ、强ひて擧げよといはば第一にギッボンの羅馬衰亡史抔云はなければありません、グロートヂチといふ人の著にて希臘史があります、マムソンの羅馬史、テーロルの（Manual of Ancient History）抔も宜しいものでしよふ倘多くありますが、畧して云ひません●住吉松子氏　上○○にころと云ふ時はかれと云つてもけれと云つても命令ではありません、かり、かる、ける、けり等も同じ意味ですと露峰氏の傳言のまゝ御答へ申します、

通信

水戸行幸啓に就て　　水戸通信員

●維新前夙に尊王の大義を唱へ力を同事に盡したる舊水戸藩の名士贈正四位藤田誠之進（東湖先生）、故藤田次郎左衞門（幽先谷生）、故戸田忠太夫（忠敏）、故會澤恒藏（死）、の四氏は特別の思召を以て祭資米料として金二百圓宛下賜せられたり

○中風病にて久しく病床に呻吟せし故藤田誠之進の夫人には此程　皇后宮陛下より羽二重二疋金百圓下賜せられたる由にて同夫人は　陛下の御仁慈の優渥なる大御心に感泣したりと云ふ

○兩陛下の奉幣使　常盤神社は舊藩中にて英明の聞へ高き源光圀、源齊昭二卿を合祀したる社なるが此度畏くも廿七日午後三時聖上よりは侍從子爵堀河康隆、を勅使として奉幣あらせられ右終りて同所なる往年國事に仆れたる人々を祀れる鎭靈社へも侍從及び皇后宮御使にて祭祀料を賜はりたり

○廿八日には舊水戸藩主德川從三位侯は參內謁見被仰付聖上陛下よりは桐御紋付花瓶一對白縮緬二疋を　皇后宮陛下よりは　金盃一個紅白縮緬二疋御菓子等を賜はりたりとなく

○奉迎したる八十歳以上の高齢者へは百歳以上の者に眞綿一抱八十歳以上の者に金若干を下賜せられたりと云ふ

片々

○北海道の學事　現在就學せる男子は一萬六千九百二人、女子は六千百六十人未だ就學せざる者男壹萬百二十六人、女壹萬七千八百人、卒業して退學せし者男六百五十三人、女百九十八人卒業せずして退學せし者二千百五十四人、女千二百六十三人にして修學人は二萬三千九百十三人修學せざる者は三萬千三百四十三人なりと而して其校數及び教員生徒の數を擧くれば左の如くなりとぞ

校名	設立	校數	校長	教員	授業生	生徒	卒業生
小學	公立	二七六	七	二九〇	六六	一八二五〇	一一三〇
	私立	三六	〇	三七	一八	三二四二	一一六
師範	廳立	一	一	一〇	〇	五四	五
農學	官立	一	一	一八	〇	四一	一七
商船	仝	一	一	一〇	〇	八〇	七
商業	公立	一	一	七	〇	九三	〇
各種學	公立	一	〇	四	〇	一一	〇
	私立	一七	〇	三二	〇	七六二	〇

○産婆試驗　此の程中より東京府廳に於て試驗中なりし産婆志願者は八十余名なりしが其の內實地試驗を受けたるものは山本登久、和田しう、柳川きく、村岡そう、佐々木きく、北川よし、栗林けい、中村しう、中島さと、金谷直子、小田多美、西山春尾、松原いれ、加藤いわ、磯島政榮、古矢つる、石橋なり、速水里江等なり

京都婦人慈善會　去一日午後六時より京都府立高等女學校に於て婦人慈善會の催ふしあり講師として菊池純氏道德論を述べ河村某氏は理化學試驗及び衛生上の談話を爲せしと云ふ

○大慈善家　フレンド教會員なる女子説教師エリサベス、カムスタツク女史は今年老ひ身躰衰へぬ、然れど女史一世の間に於て囚人十二万二千人、病者怪我人十九万五千人、貧者孤兒八万五千人を訪問せりと而して其働きし間は三十年なりといふ

○醫師の厚意　外神田松永町廿三番地住醫學士渡邊泰氏は一般女學生の便利を計らんとの主旨にて女學生に限りては眞の藥價のみにて親切に治療を施さるゝよし

●週報

宮廷　十月卅一日　皇太后　皇后兩陛下青山千駄谷なる大山陸軍大臣別邸へ行啓遊さる

官令　十月三十日教育に關して勅語を下さる●十一月一日陸軍經理學校條例裁可公布せらる●仝日陸軍定員令も亦裁可公布せらる

政治 教育　十一月一日自由俱樂部員懇親會を開く會するもの三百廿餘名　十一月三日帝國大學にて加藤總長勅語を拜讀し學生總躰より答辭を呈す●二日東京法學院にて卒業證書授與式を執行す

雜報　十一月二日三島中洲翁の壽筵を中村樓に開く●三日中正日報初刊●仝日青木外務大臣邸にて夜會を開く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

クリスマス 最良の遺物用

クリスマスも既に近くなり、正月も早や遠からず、子供衆又は家内にて樂しみに讀む面白き書物を作らんとて、左の味ひ深き敎訓のおはなしを出版す。

一冊　七錢郵稅二錢
十冊　一割引
五十冊以上　二割引
百冊以上　二割半引

子供が讀みて面白く、御婦人が讀みて爲になり、哲學者が讀みて感服する趣向なり。繪は彩色にて、文章は流麗玉を轉ずるが如し。遺物には最上なり。

女學雜誌改進　預告

預め讀者に告く

女學生半途にて廢學するもの多く、女藝の雜誌此頃ろ休刊せしもの尠なからず。女學雜誌は亦もや數年前のむかしの姿に返りて、再たび說法し、懇ろに講述する所ろなかる可らず。時勢の必要大ひに迫まり來れると自信するを以て、今月終末の雜誌、即はち第二百四十一號より又々一段の改進を爲すべし。くはしくは、次號の劵上に於てはじめて廣告せん。よむ人希ふらくは意ばせを注げ。

女學生第六號は廿一日を以て産れかはりて發兌せり

社團欒
士氣、秋色深し……天知子
女史に代りて三嘆す……暗光子
女子の文學衰ぬ……雲峰子
一夕團欒の歌。夜や靜か。天女の聲。
五樂と十樂。秋の七草。氣、候。
梨壺の五歌仙。吾が古机。捨つべく捨つ可らず

説々
孟母ならずや……清節女史
友よ友よ……佐野以曾子

切々
やまと錦……松本錦子
思ひ亂れて糸の如し……金波女史

詞麗々
雲雀‖われ里子……矢見野玉子
似たるかな此仙境……森うら子
ア、不幸の艦よ……中谷早稻子
さやかの月……山田幾子
秋かなし……佐藤德子
歌くさぐ\

答、懇々
しみ抜き諸法。釋迦と孔子の十弟子。愛の贈り物。問三件

客、來々
霞山女史樣へ(小蝶より)。世界の光明(青董小史)。

話、愉々
返魂香‖玉椿の段……柵山人

武、凛々
宮本武藏の決闘、膽力を吹込む。無想劍。薙刀組手(續)。……風柳齋

智、練々
考へもの……四題

報告……數件

女學雜誌社

森田商店ヘルス發賣廣告

NOTICE!

THE HEALTH

補血滋養 ヘルス 定價

一合分	三錢	郵税 二錢
六合分	十六錢	二錢
一升二合分	二十八錢	四錢
三升分	六十五錢	四錢
五升分	一圓	六錢

用法、裝置ノ匙一盃ヲ沸湯五勺ニ解キ二盃ヲ一合ノ割ニ解キ飲用スヘシ

ヘルス ハ多量ノ滋養分ヲ含有スルヿ牛乳ニ勝リ加フルニ佳良ノ香味ヲ有シ且ツ久シキヲ經ルモ腐敗變味ノ憂ナキト郵送スルノ便アルト以テ旅行者ノ携帶ニ適シ以テ全國ノ顧客ヲ滿足セシムルニ足ル天下無比ノ最良滋養飲料ナリ

ヘルス ハ性分ノ藥ニナルコト「すつぽん」ニ揚ル特効ヲ有スルヲ以テ過度ニ精神ヲ勞スル人、病後ノ衰弱、婦人産前産後、記臆力ノ薄弱ナル人、忍耐力ノ乏キ人、衰弱諸症、氣鬱症、肺病等ニ用ユレバ内部ヲ補ヒ氣力ヲ增シ精神ヲ活潑ニスル効アル天下無比ノ最良滋養飲料ナリ

ヘルス ハ前述ノ効能ヲ有スルヲ以テ身體強壯ナル人ト雖モ常々飲用スレバ一層健康ヲ保チ記臆力ヲ增シ忍耐力ヲ強メ諸種ノ疾病ニ犯サレザル効アリ且ツ體裁最モ高雅ナルヲ以テ見舞土産等ニハ頗ル好適セル天下無比ノ最良滋養飲料ナリ

●爲替ハ神田郵便局ヘ振込アレ●郵劵代用ハ十六錢以下ニ限リ五厘印紙ニテ一割增シ●取次販賣所ハ各地ノ洋酒店、罐詰、牛肉、牛乳、賣藥商、其他干物、西洋料理店、等ニ發賣セリ●二錢切手ヲ封入シ申込アレバ大家ノ衛生論精細ト効用書ヲ送附スベシ

NOTICE!

●取次望ノ者ハ申込ニナレバ(二錢ヲ封シ)精細ノ取次規則送附ス可シ市中ハ注文次第(十六錢以上)即時配達ス

ヘルス諸新聞ノ公評

東京新報(九月廿九日)森田商店ノ滋養「ヘルス」物ハ必要アリテ起ル近來我邦人ハ切ニ衛生論ヲ稱ヘ滋養食ノ必要ヲ論ズレバ我國ハ未ダ牧畜家畜ノ業盛ナラス徒ラニ空論ニ流レ常ニ遺憾ノ思ヒアリシガ今度府下森田商店ヨリ發賣スル「ヘルス」ハ尤モ多量ノ滋養ヲ有シ且ツ味甘美ニシテ久シキヲ過ルモ腐敗セザレバ大ニ衛生家ノ遺憾ヲ滿足セシメ日本全國ノ需用者ヲ滿足セシムルニ足ラン

東京日々新聞(十月五日)ヘルス「ヘルス」ハ商洋諸島ニ産スル鼈甲肉ヲ以テ製スル者ニテ其味ノ甘美ナルハ言フ迄デモナク其滋養分ハ却テ牛乳ニ優ル所アリトテ歐洲紳士ノ珍重スル所ナリ此頃南洋貿易ニ熱心ナル府下森田源右衛門氏ハ我邦ヘ之ヲ賣擴メンドテ見本ヲ本社ヘ寄セタルガ其味美ニシテ多量ノ滋養分アリ且ツ貯藏ニ堪ヘル良品ト見エタリ

兵事新報(九月十三日)滋養「ヘルス」日本人ノ勇ニシテ智ナルハ歐米人ノ常ニ稱賛シ感心スル所ナルガ體格ノ大小ニ至リテハ聊カ遺憾ナキ能ハス是レ其原因種々ナランガ滋養食ニ注意スルト否トハ又其原因ナラン而メ我國未ダ牧畜盛ナラズ牛肉牛乳等ノ滋養食ハ未ダ需用者ヲ滿足セシムルニ足ラズ志アル者ハ常ニ憂慮セシ處ナルガ今度滋養「ヘルス」ガ我國ニ發賣セラル丶所トナリ本社ヘモ寄送セラレシカ且滋養甘美ニシテ腐敗ノ憂ナク且ツ郵送スルノ便利アルハ容易ニ全國ノ需用者ヲ滿足セシムルニ足ルヲ以テ我日本國人ノ體格ヲ補養スルヿ少々ニアラサル可シ無病ニシテ萬年ノ快樂ヲ得シト欲スルモノハ當用スベキ良藥ナリ

ヘルス元發賣

東京市神田區鍛冶町七番地

M 森田商店

特約販賣所

日本橋區兩國米澤町藥舖	大木口哲
京橋區銀座一丁目藥舖	佐々木玄兵衛
京橋區傳馬町二丁目洋酒食料器械	堺家商店
西京五條通リ幸町西ヘ入藥舖	山本發陽堂
岩手縣北九戸郡輕米	關太郎
京橋區銀座一丁目洋酒食料	山陽堂
京橋區尾張町一丁目洋酒問屋	清水谷商店
日本橋區上槇町藥舖	安川榮太郎
大阪高津宮西坂ノ下藥舖	鳥谷市兵衛
伊勢松坂魚町藥店	田中愛生堂
日本橋區村松町	岩濱長藏
日本橋區瀬戸物町	玉置金八
日本橋區馬喰町	平尾贇年
神田區南神保町	南島軒
神田區表神保町	伊澤弘芳
神田區小川町	丸屋藥舖
神田區小川町	山城屋留藏
神田區小川町	岩原商府
神田區淡路町	龜屋洋酒店
赤坂區一ツ木町	松下支店
本鄉區眞砂町	精美堂
本鄉五丁目	青水堂
本鄉區眞砂町	尾澤蒼生堂
牛込區南山代町	遠藤兼太郎
牛込區田町	加藤福松
淺草區吾妻橋際	倉島勘藏
四ツ谷區傳馬町	渡邊服兵衛
四ツ谷區傳馬町	辻商店
日本橋區藥研堀	中尾商店
神田區表神保町	荒川忠藏
小石川區水道町	中村清助

記臆セヨ記臆！

森田商店

東京神田區鍛冶町七番地 森田商店

雜誌發刊廣告

十一月二十日第一號發兌
毎月二回五日二十日發行

學術技藝 **進步之媒**

定價 一部前金七錢◉五部前金三十三錢◉十部前金六十五錢◉地方ハ郵税を要せず◉爲換は芝口支局宛◉郵劵代用一割増

○發刊の主旨 ○文明とは何ぞや敢て萬國公法學者に質す　谷島作次郎
●論説 ○市町村の性質を論じて市町村警察の必用に及ぶ　稻垣豐之助
○目的と手段とを混同すること勿れ（政治學上並に經濟學上の二大現象に論及す）
●特別寄書 ○行政裁判（東京新報主筆朝比奈知泉） ○當世の文學者（二階堂行文）
●文藝 ○吊チルソン歌（文學博士末松靑萍）
●滑稽講談（社會學一斑）●史傳●演説（大家の演説三種）
●批評●雜報　數十件

發行所　東京京橋區弓町十番地　**進步社**

注意

今や諸法典續々發布せられ吾人之を知るの必用を生ず然れども註釋書高價にして同胞一般不便を感ぜり依て本社茲に江湖諸君の爲め

一大便益を計り非常の勉強を以て本誌五部以上申込者に限り**毎號六十頁**に餘るを註釋**附錄**とし（商法より始む）**印刷實價**（郵税共三錢）にて續々配附すべし●印刷の都合もあれば望の方は至急申込あれ但註釋のみ望の向は一冊に付き八錢づゝ申受くべし

保險附風琴各種精製廉價販賣ス

風琴直シ御報知次第直ニ參上極廉價ニ修覆可仕候

麹町區三番町四番地　**風琴製造所**

理學士木村駿吉先生編

精神的基督教

全一冊　正價金卅五錢　郵税金四錢　郵劵代用不苦

本書は本年七月東京芝白金明治學院内に設けられたる第二回夏期學校に於ける日本基督諸大家の演説及ひ説敎を理學士木村駿吉先生の選擇編輯せられたるものなり●書中載する所は篤恭なる牧師の説敎あり文理ある學士の哲學あり中正剛直なる政治家實業家の憂國談あり經濟家の處世談ありて今日直要する日本基督敎の基を開き日本基督敎靑年學生をして他日世に立ちて國家に盡すべき道を知らしむるものなり●本書は九月中に發賣の豫期なりしが必要なる演説意外に多く紙數凡そ三分の一を增加し加之彼の有名なるドラムモント博士の演説をも記載し且つ數回の校閲を加へ速成踈漏の弊を匡したれば本書に取りては實に倍大の美完を添へたり諸彥請ふ之を諒せよ

本書は既に盡く綴裝の業を終へたれば代價到達の順に從ひ即時に遞送すべし速に御注文あらんとを請ふ

東京日本橋區大傳馬町二丁目十六番地

發行所　**内田老鶴圃**

賣捌所は京都同志社ハリス學校前濟集光堂及ひ府下各書肆

定價

一冊。	六錢	郵税。五厘	（但府内無郵税）
十冊。	五拾八錢	郵税。五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

東京市麹町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

天賞堂時計發賣廣告

瑞西國シイベル、フレンワルド横濱新九十番商會專賣に係る時計の精巧堅牢なるは江湖の熟知せらるゝ處弊堂該懷中時計數十種中に就き左の八種を撰擇し廣く之を發賣す

(金側)丁價六十圓十八金廿一形片硝子持出し付金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上げ髯向ひ爪左アンクル二番より惣石入●丙價七十圓同裏三枚蓋●乙價七十五圓同無雙●甲價九十八圓同裏三枚蓋●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送賃廿錢●(銀側)丁價八圓片硝子廿一形金針入鍵卷懷中時計器械プラチナ滅金向ひ爪左アンクル●丙價十一圓半同龍頭卷向ひ爪右アンクル●乙價十五圓同本ニッケル卷上ゲ髯二番より惣石入●甲價廿一圓同七所金●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送賃廿錢

右時計は器械の堅牢なる弊堂が說明を待たざる處なり然れども特に御請求の分に限りて左の手續に從ひ正確の保險狀を呈すべし○保險を要せらるゝ場合は御購求の當時と既に御購求の後に在るとに拘らず各一個に付左の保險料を申受べし　一金側金五圓　一銀側金二圓○保險年限は金銀時計共二十箇年を以て限とす○保險年限中は特に諸器械及び硝子の破損修繕油さし磨き直しの手入は無代價とす○保險年限中自然器械の變化を生じ使用に堪へざる事あれば何時たりとも同種にして新規なる者と交換又は原價を返却すべし●保險の有無に拘はらず**御購求後三十日以內に限り交換又は原價の返戻を要せらるゝときは其望に應ずべし**

今回又左の時計及時計附屬品洋服裝飾品各種を發賣す●但し時計は保險手續其他總て前文による

米國製(金側)十八金廿一形無雙龍頭卷懷中時計甲價百五圓●同乙價九十五圓●同十四金甲價七十三圓●同乙價六十三圓●(銀側)同甲價廿圓●同乙價十六圓●同片硝子價十五圓●(金着側)同無雙甲價廿九圓●同乙價廿五圓

瑞西國製(金側)十八金廿一形無雙懷中時計器械本ニッケル卷上げ髯向ひ爪左アンクル二番ゟ惣石入價六十五圓●同十四金價四十九圓●同十八金裏三枚蓋乙價九十二圓●同甲價百十圓●同七曜及日指し付價百四十五圓●同コロノカラフ引打月の滿缺十二ヶ月七曜及日指し付價三百五十圓●(銀側)廿一形無雙裏三枚蓋金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上ヶ髯向ヒ爪左アンクル總石爪石入價三十六圓●同片硝子右アンクル價廿九圓●同中硝子價廿六圓●同片硝子鍵卷懷中時計器械本ニッケル卷上ヶ髯向ヒ爪左アンクル價十一圓●同惣石入價十五圓●同爪石入價十八圓●

貴婦人持時計(金側)十八金十三形無雙龍頭卷懷中時計價廿九圓●同裏三枚蓋價四十五圓●同片硝子價十七圓半●同無雙金剛石裝飾付價六十六圓

時計附屬品　鎖及磁石寫眞入鉛筆其他各種　**指環**　黃金製見留印付及寶石入各種

洋服裝飾品　腕輪胸飾ピン手ボタン其他各種

交詢雜誌評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は米國製及び夙に時計の製作を以て世に有名なる瑞西國の製品にしてその器械の堅牢なること其の構造の精緻なること其の裝飾の美麗なること何れも世間の好評に違はざる良品なり尚且購求後三十日以內は購買者の自由に之を取換又は返還するを得て望みに依れば二十箇年を限り之を保險しその年限中は無代價にて之を修復するよしなれば購買者の爲め更に一層の便利なりと云ふべし

東京日日新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て有名なる京橋區尾張町二丁目十八番地の天賞堂にて此程より發賣する金銀時計は歐米製造數千百種の中につき特に器械裝飾の善良完美なるものを撰擇せしものゝ由にて從來舶載の物に比すれば堅牢精緻なる同日の談に非ざるが如し殊に時計一個每に丁寧親切なる心得書を添へ又二十年間の保險を附し購求後三十日以內は物品の交換原價の返却とも購客の望に任ずると云へば自然適意の品物を入手するを得べきなり猶前日來の廣告につき其詳細一覽あるべし

時事新報評

○天賞堂ノ時計　尾張町二丁目ノ天賞堂ニテ發賣スル時計ハ何レモ機械ノ堅牢ナルモノヲ撰ミ購求者ヘ取扱ヒ方心得書ヲモ與ヘ買取後三十日以內ハ交換或ハ原價ノ返却ヲ求ムレハ其望ミニ應スルトノコトナリ

朝野新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て名ある尾張町二丁目天賞堂にて發賣する時計は各種の時計中に就き特に撰擇せしものにて在來の時計に比し機械も餘ほど堅牢精功なるに一個每に取扱心得書を添へ且購求後三十日以內は都合に依り交換又は原價の返却を求むる時は其望みに應ずる由

郵便報知新聞評

○天賞堂時計　彫刻ニ有名ナル天賞堂(京橋區尾張町二丁目十八番地)ヨリ發賣スル時計ハ米國製或ハ瑞西國製ニシテ器械堅牢且ツ裝飾美麗ナルヲ以テ大ニ評判ヨク殊ニ購求後三十日以內ニ現物ガ氣ニ入ラヌ時ハ他品ト取換ヘ又ハ原價ヲ返戻スルヨシナレバ購客モ大ニ安心シテ買求メ望ミニヨリテハ保險ヲモ附シ其ノ年限內ハ器械及ヒ硝子ノ破損等ノ修復ハ無代價ナリト云フ

日本人評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は、歐米各種の製造品中に就き、特に器械の堅牢なるものを撰擇して、一個每に丁寧なる取扱方心得書をも添へ、其上二十年間の保險を附するのみならず、購求後三十日間は、品物の變換、代價の返還をも凡べて其の望み通りに任かすと云へは、購買者に取ては至極便利なりと云ふべし。

東京市京橋區尾張町二丁目十八番地

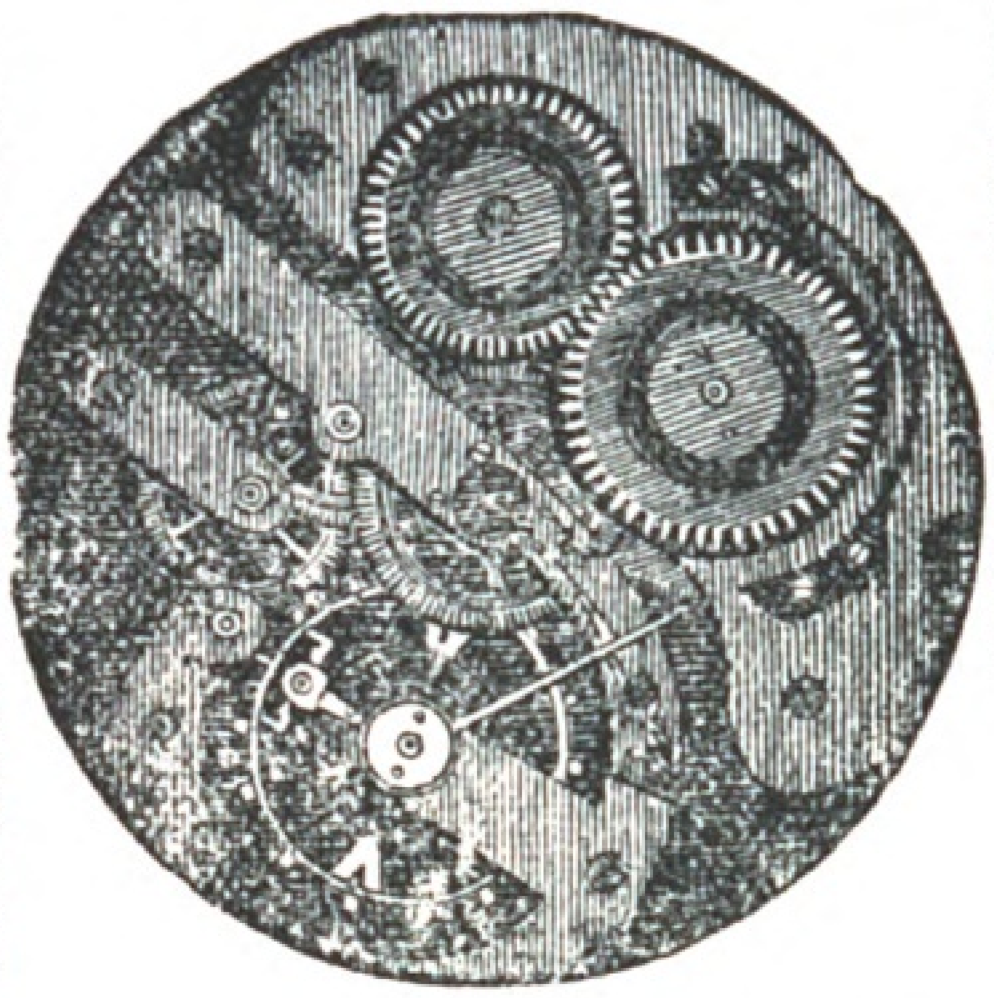
天賞堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

天賞堂時計發賣廣告

瑞西國シイベル、フレンツルド横濱新九十番商會專賣に係る時計の精巧堅牢なるは江湖の熟知せらるゝ處弊堂該懷中時計數十種中に就き左の八種を撰擇し廣く之を發賣す



(金側)丁價六十圓十八金廿一形片硝子持出し付金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上げ髯向ひ爪左アンクル二番より惣石入●丙價七十圓同裏三枚蓋●乙價七十五圓同無雙●甲價九十八圓同裏三枚蓋●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送費廿錢●(銀側)丁價八圓片硝子廿一形金針入鍵卷懷中時計器械プラチナ滅金向ひ爪左アンクル●丙價十一圓半同龍頭卷向ひ爪右アンクル●乙價十五圓同本ニッケル卷上ゲ髯二番より惣石入●甲價廿一圓同七所金●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送費廿錢

右時計は器械の堅牢なる弊堂が說明を待たざる處なり然れども特に御請求の分に限りて左の手續に從ひ正確の保險狀を呈すべし○保險を要せらるゝ場合は御購求の當時と既に御購求の後に在るとに拘らず各一個に付左の保險料を申受べし　一金側金五圓　一銀側金二圓○保險年限は金銀時計共二十箇年を以て限とす○保險年限中は特に諸器械及び硝子の破損修繕油さし磨き直しの手入は無代價とす○保險年限中自然器械の變化を生じ使用に堪へざる事あれば何時たりとも同種にして新規なる者と交換又は原價を返却すべし●保險の有無に拘はらず**御購求後三十日以內に限り交換又は原價の返戻を要せらるゝときは其望に應ずべし**

今回又左の時計及時計附屬品洋服裝飾品各種を發賣す●但し時計は保險手續其他總て前文による

米國製(金側)十八金廿一形無雙龍頭卷懷中時計甲價百五圓●同乙價九十五圓●同十四金甲價七十三圓●同乙價六十三圓●(銀側)同甲價廿圓●同乙價十六圓●同片硝子價十五圓●(金着側)同無雙甲價廿九圓●同乙價廿五圓

瑞西國製(金側)十八金廿一形無雙懷中時計器械本ニッケル卷上げ髯向ひ爪左アンクル二番より惣石入價六十五圓●同十四金價四十九圓●同十八金裏三枚蓋乙價九十二圓●同甲價百十圓●同七曜及日指し付價百四十五圓●同コロノカラフ引打月の滿缺十二ヶ月七曜及日指し付價三百五十圓●(銀側)廿一形無雙裏三枚蓋金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上ケ髯向ヒ爪左アンクル總石爪石入價三十六圓●同片硝子右アンクル價廿九圓●同中硝子價廿六圓●同片硝子鍵卷懷中時計器械本ニッケル卷上ケ髯向ヒ爪左アンクル價十一圓●同惣石入價十五圓●同爪石入價十八圓●

貴婦人持時計(金側)十八金十三形無雙龍頭卷懷中時計價廿九圓●同裏三枚蓋價四十五圓●同片硝子價十七圓半●同無雙金剛石裝飾付價六十六圓

時計附屬品鎖及磁石寫眞入鉛筆其他各種

指環黃金製見留印付及寶石入各種

洋服裝飾品腕輪胸飾ピン手ボタン其他各種

交詢雜誌評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は米國製及び凡に時計の製作を以て世に有名なる瑞西國の製品にしてその器械の堅牢なることその構造の精緻なることその裝飾の美麗なること何れも世間の好評に違はざる良品なり尙且購求後三十日以內は購買者の自由に之を取換又は返還するを得て望みに依れば二十箇年を限り之を保險しその年限中は無代價にて之を修復するよしなれば購買者の爲め更に一層の便利なりと云ふべし

東京日日新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て有名なる京橋區尾張町二丁目十八番地の天賞堂にて此程より發賣する金銀時計は歐米製造數千百種の中につき特に器械裝飾の善良完美なるものを撰擇せしものゝ由にて從來舶載の物に比すれば堅牢精緻なる同日の談に非ざるが如し殊に時計一個每に丁寧親切なる心得書を添へ又二十年間の保險を附し購求後三十日以內は物品の交換原價の返却とも購客の望に任ずると云へば自然適意の品物を入手するを得べきなり猶前日來の廣告につき其詳細一覽あるべし

時事新報評

○天賞堂ノ時計　尾張町二丁目ノ天賞堂ニテ發賣スル時計ハ何レモ機械ノ堅牢ナルモノヲ撰ミ購求者ヘ取扱ヒ方心得書ヲモ與ヘ買取後三十日以內ハ交換或ハ原價ノ返却ヲ求ムレハ其望ミニ應スルトノコトナリ

朝野新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て名ある尾張町二丁目天賞堂にて發賣する時計は各種の時計中に就き特に撰擇せしものにて在來の時計に比し機械も餘ほど堅牢精功なるに一個每に取扱心得書を添へ且購求後三十日以內は都合に依り交換又は原價の返却を求むる時は其望みに應ずる由

郵便報知新聞評

○天賞堂時計　彫刻ニ有名ナル天賞堂(京橋區尾張町二丁目十八番地)ヨリ發賣スル時計ハ米國製或ハ瑞西國製ニシテ器械堅牢且ツ裝飾美麗ナルヲ以テ大ニ評判ヨク殊ニ購求後三十日以內ニ現物ガ氣ニ入ラヌ時ハ他品ト取換ヘ又ハ原價ヲ返戻スルヨシナレバ購客モ大ニ安心シテ買求メ望ミニヨリテハ保險ヲモ附シ其ノ年限內ハ器械及ビ硝子ノ破損等ノ修復ハ無代價ナリト云フ

日本人評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は、歐米各種の製造品中より就き、特に器械の堅牢なるものを撰擇して、一個每に丁寧なる取扱方心得書をも添へ、其上二十年間の保險を附するのみならず、購求後三十日間は、品物の變換、代價の返還とも凡べて其の望み通りに任かすと云へば、購買者に取ては至極便利なりと云ふべし。

東京市京橋區尾張町二丁目十八番地　天賞堂